ISSN 1880-3067

大阪歴史博物館年報

令和7年度



大阪歴史博物館

令和8年10月

目　次

はじめに…… 1

展観事業…… 1

資料収集…… 5

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し……１２

教育普及事業……１２

学校連携事業……１４

ボランティア関連事業……１４

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携……１４

文化庁補助金による取り組み…… １５

展示等改修計画…… １５

広報宣伝活動…… １５

民間連携事業…… １６

刊行物…… １６

調査研究活動…… １６

受嘱・派遣・視察…… ２２

令和7年度入場者数…… ２２

利用規定……２３

運営組織……２４

はじめに

令和７年度は、大阪・関西万博の開催にともない、本館のさまざまな事業が活性化し、入館者数も当初の目標を大きく上まわる結果となった。

特別展は、「日本刀1000年の軌跡」と「正倉院 THE SHOW」を開催した。このうち６月から８月に開催した後者では、１日平均1,600人以上、合計10万人以上の方に来場いただいた。ついで、９月から10月を会期とした特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」でも、会期中、合計３万人近い方に常設展示に来場いただいた。とりわけ「大阪の宝」は万博を強く意識した展示で、大阪市博物館機構が実施した大阪博事業の一環であった。この他に１つの特別企画展、６つの特集展示を開催し、関連する講演会、展示解説などもおこなうことで、多角的な情報発信につとめた。

新収館蔵資料として、令和７年度も、歴史、美術、考古、芸能、建築などの各分野にかかわる膨大な資料を寄贈いただいた。今後の研究、展示に活用させていただきたい。教育普及事業としては、さまざまな講座・見学会を開催するなどし、また学校連携事業、友の会や博物館群との連携など、多彩な活動に継続して取り組んだ。

調査活動は、本館独自の共同研究・基礎研究に加え、科学研究費にもとづく研究にも多く従事している。その成果は、研究紀要や将来の展示の場で発揮されてゆくものと期待される。

令和６年度にひきつづき、文化庁補助金を活用し、ミュージアム活性化実行委員会を構成し、データベース構築、アーカイブス化、ならびにインバウンド需要創出事業を実施した。また歴博魅力創造パートナーズとの民間連携事業を進め、新しいミュージアムグッズの開発、レストランでのコラボメニューの提供、サブ・ウェブサイトの運用などをおこなった。

最後に、令和７年度末をもって、大澤研一が６年間におよぶ本館館長の職を辞したことを報告しておく。令和８年度からは仁木宏が新たに館長職に就いている。博物館での勤務は初めてであるが、来館者に、より楽しんでいただける館の実現に寄与したい。

大阪歴史博物館　館長　仁木　宏

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また、展望窓から実際の難波宮跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている５世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●９階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では、中世大坂の町の様子を大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●８階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、視覚表現を多用したパネルやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、２ヵ月程度で更新して実施している。

●７階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡　遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）がおかれていた。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち15棟を地上表示し、１棟を復元展示している。

●タイム・カプセルEXPO’70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業株式会社（現・パナソニックホールディングス株式会社）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には２機が埋設されているが、当博物館の１階北東のエスカレーター奥に１機展示している。

常設展更新の状況

10・9・7階および1階エントランスにおいて、66件の展示替えを行った。

階	コーナー	内　容	期　間
10	特設コーナー	細工谷遺跡出土　墨書土器と瓦	4月2日～6月30日
10	特設コーナー	銭司遺跡　和同開珎の鋳型	7月2日～9月29日
10	特設コーナー	森の宮遺跡第1・2次発掘調査の記録	10月1日～1月19日
10	特設コーナー	難波宮跡・大坂城跡の発掘調査　成果速報	1月21日～3月30日
10	難波宮を掘る	大極殿階段跡の発見（写真パネル）	5月5日～8月7日
10	難波宮を掘る	重なり合った重圏文と蓮華文（写真パネル）	8月8日～11月3日
10	難波宮を掘る	倒壊した状態で見つかった瓦（写真パネル）	11月5日～2月23日
10	難波宮を掘る	飛鳥・奈良時代の遺構の重なり（写真パネル）	2月25日～
10	難波京の風景	食と「秋」の墨書土器	10月6日～12月27日
10	難波京の風景	難波宮跡及びその近隣で出土した土馬	1月5日～
10	難波京の風景	土師器杯　墨書「百尼」	1月5日～3月30日
9	まちの生活	滑稽浪花名所を読み解く　上町台地編	4月23日～5月26日
9	まちの生活	滑稽浪花名所を読み解く　上町台地編	5月28日～6月23日
9	まちの生活	夏の祭礼関係資料	6月25日～8月25日
9	まちの生活	大坂町人が手にしたやきもの（瀬戸、美濃、織部など）	8月27日～11月3日
9	まちの生活	木綿作り（『綿圃要務』、源五兵衛摂など）	11月5日～2月2日
9	まちの生活	近世大坂の相撲番付	2月4日～
9	秀吉のまちづくり	豊臣大坂城本丸出土瓦	12月10日～
9	都市と近郊農村	大坂と近郊農村の絞油業	7月28日～
9	町人の学問・文化	大阪天満宮の社家文化（滋岡家伝来史料の紹介）	7月23日～10月6日
9	町人の学問・文化	大阪天満宮の社家文化（滋岡家伝来史料の紹介）	10月8日～12月22日
9	町人の学問・文化	大阪天満宮の社家文化（滋岡家伝来史料の紹介）	1月5日～3月2日
9	町人の学問・文化	大阪天満宮の社家文化（滋岡家伝来史料の紹介）	3月24日～
9	大阪の幕末・維新	大塩平八郎の乱	4月23日～3月16日
9	大阪の幕末・維新	疫病と大坂の人びと	3月18日～
7	都市の構造	第1回国勢調査と大阪市（任命書など）	9月9日～11月24日
7	都市の構造	大阪の公立高等女学校	11月26日～
7	近代都市の建設	旧ダイビル本館の建築部材	6月11日～10月13日
7	近代都市の建設	アール・デコの建築装飾	10月15日～
7	地域のなかの戦争	中共帰国者の雇用促進に協力しましょう	9月28日～
7	博覧会と大阪	日本現代風俗絵巻　「秋・冬の巻」	8月20日～10月13日
7	博覧会と大阪	タイム・カプセル EXPO'70 育児用品	8月27日～10月13日
7	博覧会と大阪	第五回内国勧業博覧会見物案内図	10月15日～3月31日
7	博覧会と大阪	タイム・カプセル EXPO'70 現代風ロゼッタ石	10月15日～
7	産業の展開	製材所の写真2点	5月28日～10月20日
7	産業の展開	ちょぼ焼き器	9月25日～10月20日
7	産業の展開	造幣局製大阪市域拡張記念賞牌、大阪砲兵工廠関連資料	10月22日～
7	産業の展開（特設）	大阪大国技館（写真、絵葉書）	2月22日～
7	美術工芸の諸相	阪井俊政の刀装具 (夏)	7月16日～1月23日
7	美術工芸の諸相	切嵌細工	10月22日～2月23日
7	美術工芸の諸相	大阪の開化絵（期間途中で展示替えあり）	3月5日～1月19日
7	美術工芸の諸相	明治期大阪風俗絵巻（期間途中で巻き替え）	1月21日～
7	美術工芸の諸相	高麗橋鉄橋図皿	2月25日～
7	メディアと流行	ニューメディアとしての絵葉書	4月2日～8月31日
7	メディアと流行	情報の革命―ラジオの時間―	7月9日～2月2日
7	メディアと流行	近代俳人・塚本虚明　ゆかりの品々	2月4日～
7	市場とデパート	大阪高島屋御案内　昭和十二七月	7月2日～8月4日
7	市場とデパート	大阪一眸絵葉書	4月2日～
7	市場とデパート	大阪高島屋御案内　昭和十一六月	5月14日～6月30日
7	市場とデパート	パナマ帽（高島屋で販売）	5月14日～8月4日
7	市場とデパート	大阪高島屋御案内　昭和十一八月、カンカン帽	8月6日～9月7日
7	都市の民間信仰	初姫大明神祈願札	8月15日～3月31日
7	家族と家庭	たこやき器	8月27日～3月31日
7	引札と広告	天使の引札	8月20日～11月24日
7	引札と広告	引札にみる文明開化	11月26日～
7	鴻池家の生活用具	天使型スピーカー	4月2日～5月12日
7	鴻池家の生活用具	寿ぎの扇	5月14日～7月28日
7	鴻池家の生活用具	続・寿ぎの扇	7月30日～10月6日
7	鴻池家の生活用具	鴻池家の食卓	10月8日～1月23日
7	鴻池家の生活用具	冬の必需品　手焙・火鉢	1月24日～3月30日
7	写真パネルコーナー	日本万国博覧会開催に向けた準備運動	4月12日～
7	特設コーナー	大阪張子　鍾馗	4月9日～6月9日
1	ポスター展	百済の遺民が残したもの	4月2日～6月30日
1	ポスター展	森の宮遺跡第1・2次発掘調査の記録	7月2日～1月19日
1	ポスター展	難波宮北部ブロックについて	10月1日～
1	ポスター展	難波宮跡・大坂城跡の発掘調査　成果速報	1月21日～

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●泉布観―大阪最古の洋風建築―

会　　期：令和7年2月19日 ～ 4月14日
出 品 数：30件
担　　当：阿部文和

泉布観は、明治4年(1871)に造幣局の応接所として建設された、現存する大阪最古の洋風建築である。そして大阪行幸で訪れた明治天皇により「泉布観」と命名されると、明治時代を通じて皇族や国内外の要人を迎えるなど、大阪の迎賓館として活用されてきた。本展では、絵画資料や建築部材、明治天皇行幸関係資料などを展示し、造幣局の建設経緯や泉布観が歩んできた歴史を紹介した。また、通常非公開である泉布観内部のようすを理解してもらうため、往時の姿を再現した映像「近代大阪の迎賓館 泉布観」(令和5年度大阪市経済戦略局制作、大阪歴史博物館監修)を展示室で初公開した。

◇関連行事
- 展示解説　3月1・15日、4月12日
- なにわ歴博講座「泉布観―大阪最古の洋風建築―」2月23日

●オープン the タイムカプセル

会　　期：令和7年4月16日～ 6月23日
出 品 数：132件（140点）
担　　当：奥本未世

本展でスポットを当てるタイム・カプセルEXPO'70は昭和45年（1970）に開催された日本万国博覧会を記念して、毎日新聞社と松下電器産業株式会社（現・パナソニック ホールディングス株式会社）によりつくられた。2025年に再び大阪で万博が開催されることを記念して当館所有のカプセル収納品の中から「20世紀」「継承」「進歩」の視点で選りすぐった140点を紹介した。

◇関連行事
- 展示解説　4月29日、6月8日
- 16mmフィルム〈表情1970〉 デジタルリマスター上映会「～カプセルに封印された昭和の記録、甦る20世紀の日常～」5月3日

●新収品お披露目展

会　　期：令和7年6月25日～ 9月1日
出 品 数：23件
担　　当：豆谷浩之

大阪歴史博物館では開館以来、大阪を中心とする地域の歴史や文化を広く市民に紹介し、理解を深めてもらうことを事業運営の基本方針としている。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民から寄贈を受けたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用している。本展では、令和6年度に新たに館蔵品となった寄贈品から、未公開のものを中心に23件を紹介した。主な展示資料は、染織見本帖、梅に羊歯文蒔絵提重、聖護院宮御令旨箱と大坂金剛院歓道宛令旨など。

●YABU MEIZAN

会　　期：令和7年9月3日～ 11月3日
出 品 数：52件59点
出 品 数：中野朋子

江戸時代の終わりから明治時代にかけて、日本から諸外国に輸出された鹿児島の薩摩焼は“SATSUMA”と呼ばれ一大流行を巻き起こした。この流行に乗って展開した日本各地の「薩摩焼」風陶磁器の製産のうち、明治13年（1880）に大阪で創業した輸出向け薩摩焼の上絵付工房の主である藪明山（YABU MEIZAN、1853 ～ 1934）の作品ならびに関連資料を展示し、明山の実像と作品製作のあり方について言及した。なお、本展覧会は、JSPS科学研究費19K00209の助成を受けた研究成果の一部である。

◇関連行事
- 展示解説　9月6日、10月18日

●デザインの玉手箱・鐔

会　　期：令和7年11月5日～令和8年1月12日
出 品 数：40点
担　　当：内藤直子

刀剣の外装を彩る鐔は、刀装具のなかで最も目立つ金具である。特に鉄の透鐔にはさまざまな趣向を凝らしたデザインが施される。当館では、平成30年（2018）度に、関西最大級の刀装具コレクターであった勝矢俊一氏（1895 ～ 1980）旧蔵の刀装具類927点の寄贈を受けた。本展では寄贈された勝矢コレクションの刀装具から、透鐔のデザインに着目し、未公開作品を含む約40点を展示した。

◇関連行事
- 展示解説　1月10日

● 郷土玩具が好き―風土と造形の愉しみ―

会　　期：令和8年1月14日～ 4月6日
出 品 数：約150件
担　　当：俵和馬

郷土玩具は、各地の民間信仰や習俗と結びつきながら、紙や木材など身近な材料を使用して作られた、風土を反映した造形物である。素朴で可愛らしいだけでなく、地域の歴史・文化を感じとることができるのも、郷土玩具の魅力のひとつである。本展では、当館が所蔵する全国の郷土玩具を、素材やモチーフ、造形に込められた祈りに注目して紹介した。

◇関連行事
- 展示解説　1月24日、2月21日、3月21日

特別展

●ー全日本刀匠会50周年記念ー 日本1000年の軌跡



会　　期：令和7年4月4日～ 5月26日
開館日数：47日
入場者数：22,495人
出 品 数：84件
図　　録：A4版、96頁
担　　当：内藤直子、岩佐伸一
主　　催：大阪歴史博物館、全日本刀匠会、合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会、（株）テレビせとうちクリエイト
後　　援：（公財）大阪観光局

鎬造で反りのある美しい日本刀の姿が完成したのは平安時代のことと考えられている。以降現在に至るまで、先の大戦後の一時期を除き、日本刀は約1000年にわたり製作され続けてきた。1000年もの間日本刀の製作が続いてきたのは、常にその時代に活躍していた刀匠が存在したからにほかならない。

現在の国宝・重要文化財も作られた当初は新作刀であったように、今まさに作り続けられている新作刀のなかにも未来の国宝・重要文化財となる作品があるかもしれない。

本展は、国内最大の現代刀匠たちの団体である全日本刀匠会が設立されてから50年を迎える節目を記念し、1000年を経て現代へとバトンが受け継がれる日本刀の世界をご紹介した。

◇おもな展示作品
- 重要美術品　太刀　銘　安綱（号 天光丸）平安時代後期　壺井八幡宮蔵
- 重要文化財　刀　銘　井上真改／（菊紋）延宝二二年八月日延宝4年（1676）個人蔵
- （初公開）包丁　銘　浪華住刀匠　月山源貞光彫同作（花押）昭和20～28年（1945～53）　月山日本刀鍛錬道場蔵
- 刀　銘　大和国住月山貞利謹切物同作（花押）　美和山狭井河之上／令和二二壬寅歳三月吉祥日　　令和4年（2022）個人蔵
- 刀　銘　宮入小左衛門行平　令和4年（2022）　個人蔵

◇関連行事
- 記念座談会「1000年の伝統を伝える―刀匠が語る日本刀の魅力―」4月19日
- 現代刀鑑賞会　4月20日
- 刀匠といっしょにつくろう！新聞紙でつくる日本刀　5月5日
- 刀匠ギャラリートーク
  4月5日、4月6日、5月4日、5月10日、5月11日
- 木炭のチカラ体験会―炭で金属をみがこう　5月18日

●正倉院 THE SHOW　ー感じる。いま、ここにある奇跡ー

会　　期：令和7年6月14日～8月24日
開館日数：63日
入場者数：101,799人
出 品 数：14件（59点）
担　　当：寺井誠、俵和馬、李陽浩
主　　催：大阪歴史博物館、「正倉院 THE SHOW」実行委員会（読売テレビ、読売新聞社、TOPPAN、角川メディアハウス）
監　　修：宮内庁正倉院事務所
後　　援：（公財）大阪観光局



本展は、宮内庁正倉院事務所によって進められた宝物についての最新の研究成果と、それを基礎にして現代の職人によって精巧に再現された「再現模造」、さらには360度からスキャンして得られた高精細3Dデジタルデータなどを駆使して構成した、これまでとは全く異なる体感型の展示を目指したものである。展示は4部構成となり、「1）奇跡のはじまり」では、宝物誕生の背景にある聖武天皇と光明皇后とのエピソードを紹介し、「2）全身で感じる」では再現模造の展示とともに、大画面に3Dデジタルデータを活用した映像を映し出し、音楽・照明を組み合わせることによって、宝物の美を引き出した。「3）壮大な物語」では、再現模造の展示とともに、正倉院事務所の調査研究や再現模造を作り出す過程を映像や写真を交え紹介し、蘭奢待の香りを体験するコーナーを設置した。「4）新たな鼓動」では、正倉院や宝物の美、音色などからインスピレーションを受け、現代アーティストが新たに創造した服飾品、工芸品、楽曲、写真作品などを紹介した。

当館でこれまで実施したことがないイマーシブ展示であることが好評となり、マスメディアやSNSで数多く取り上げられ、10万人を超える来館者を得ることができた。

◇おもな展示作品
- 模造 螺鈿紫檀五絃琵琶
- 模造 螺鈿箱
- 模造　紅牙撥鏤尺

◇関連行事
- 螺鈿体験ワークショップ　7月5日
- ～タケモトピアノ Presents～ ピアノの日リサイタル　7月6日
- 「正倉院 THE SHOW」開催記念トークイベント 「科学で紐解く正倉院　～蘭奢待の香り再現プロジェクトに迫る～」　7月26日

特別企画展

●大阪の宝 in 大阪歴史博物館

会　　期：令和7年9月13日～10月13日
開館日数：27日
入場者数：29,654人
出 品 数：227件
担　　当：島﨑未央、奥本未世、松本百合子
主　　催：大阪歴史博物館、（地独）大阪市博物館機構
後　　援：（公財）大阪観光局



本展は、大阪・関西万博開催期間に大阪市博物館機構（以下、機構）が実施した大阪博事業の一環で、館蔵品・寄託品の中から「大阪の宝」を選定し、広くその歴史と価値を伝える「リアル展示」として企画された。機構傘下の各館で、展覧会形式で「リアル展示」を実施したのは大阪歴史博物館のみである。

本展では、機構が設定した「大阪の力」を下敷きに、大阪歴史博物館とその収蔵資料の性格に即してリライトし、第1章 都市の力、第2章 風土の力、第3章 芸術の力、第4章 市民の力、第5章 未来への力という章立てにした。都市大阪の歴史をテーマとした当館常設展示では長らく公開の機会がなかった名品・優品を展示できたほか、大阪の歴史と文化を多面的に照らし出す様々な性格の資料を、大阪の力を示す「宝」として位置づけなおして紹介する機会でもあり、考古、歴史、美術、民俗、芸能、建築と多岐にわたる所蔵品が一堂に会した。

◇おもな展示作品
- 【大阪市指定文化財】 金箔桐文方形飾瓦　豊臣時代（16世紀末）大阪歴史博物館保管
- 京屋唐箕　嘉永4年（1851）　大阪歴史博物館蔵（平野区画整理記念会館寄贈）
- 龍自在置物　穐山竹林斎作　大正12年（1923）　大阪歴史博物館蔵（西條敏弘氏寄贈）
- 【重要文化財】 屈折式望遠鏡　江戸時代後期（19世紀）大阪歴史博物館蔵（羽間平安氏寄贈）
- 【ユネスコ「世界の記憶」登録品】 朝鮮通信使御楼船図屏風　江戸時代　大阪歴史博物館蔵（辛基秀コレクション）

◇関連行事
- 16mmフィルム〈表情1970〉デジタルリマスター上映会　9月15日
- わくわく子ども教室「金箔瓦をつくろう、郷土玩具であそぼう」　9月21日
- フィールドワーク「朝鮮通信使と大坂」　10月5日

●河内源氏と壺井八幡宮



会　　期：令和8年1月16日～3月15日
開館日数：51日
入場者数：42,122人
出 品 数：76件
担　　当：谷口正樹、猪岡叶英、
　　澤井浩一
主　　催：大阪歴史博物館
特別協力：壺井八幡宮
後　　援：（公財）大阪観光局、羽曳野市、
　　（一財）大阪はびきの観光局

「八幡太郎」源義家や、源頼朝・義経兄弟、足利尊氏を輩出し、「武家の棟梁」の家として神格化・理想化された「河内源氏」一族。その祖源頼信は、伝承によると任国である河内国支配のため、壺井（現・大阪府羽曳野市壺井）の地に拠点を構えたという。拠点の拡充は頼信の子・頼義以降行われたとされ、頼義による建立伝承を持つ壺井八幡宮（同）・通法寺（羽曳野市通法寺、現在は廃寺）は、源氏ゆかりの寺社として知られ、長らく武家の崇敬を受けてきた。壺井八幡宮にはそのことを示す品として、「木造僧形八幡神及諸神坐像」「黒韋威胴丸（壺袖付）」（いずれも重要文化財）、「太刀　銘安綱（号　天光丸）」（重要美術品）をはじめとする美術工芸品や、中世・近世・近代にかけての古文書など、様々な文化財が伝来している。

本展は、そうした壺井八幡宮が有する貴重な文化財と、河内源氏に関する館蔵資料等をあわせて展示し、河内源氏の活躍と伝承、そしてその源流が大阪にあったことを紹介した。

◇おもな展示作品
- 木造僧形八幡神像（重要文化財、壺井八幡宮蔵）
- 黒韋威胴丸（壺袖付）（重要文化財、壺井八幡宮蔵）
- 太刀　銘安綱（号　天光丸）（重要美術品、壺井八幡宮蔵）
- （年未詳）7月6日付長久信書状（壺井八幡宮蔵）

◇関連行事
- 学芸員によるスライドトーク　2月1日、3月1日
- シンポジウム　「河内源氏の宗廟」壺井八幡宮の中世・近世・そして現代　2月14日

資料収集

令和7年度は、寄贈によって新たに671件1,211点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●令和７年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	522	0	0	522
美術	77	0	0	77
考古	32	0	0	32
民俗	0	0	0	0
芸能	553	0	0	553
建築	27	0	0	27
	1,211	0	0	1,211

●館蔵品総点数（令和８年３月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	84,167	9,143	86	93,396
美術	9,551	1,648	3	11,202
考古	7,267	4,765	6,178	18,210
民俗	4,938	2,485	2	7,425
芸能	12,278	1,029	3	13,310
建築	6,326	0	27	6,353
	124,527	19,070	6,299	149,896

文化財IPM

博物館の新規受入資料に対する各種害虫の駆除のために、二酸化炭素殺虫処理を1月に実施した。また、収蔵資料の保全のため、7～8月に収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。同じ目的で2月に空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

●新収館蔵資料紹介

鴈治郎飴容器

大正～昭和時代初期



森西真弓氏寄贈

イ菱紋を蓋全面に配した菱形の缶。

「鴈治郎飴／いびし／大阪島之内玉屋町（成駒家隣）」の商標紙が伴うことから、初代中村鴈治郎の名を冠した「鴈治郎飴」の容器と考えられる。

新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇田中茂氏寄贈資料
天王寺区生玉前町前大地図　1点

◇田中久盛氏寄贈資料
陸軍特別大演習にかかる電明社製星印魔法瓶
　寄贈への御礼状等一式　1点
田中惣五郎氏の家族写真　1点

◇藤原順子氏寄贈資料
木製番重　1点
隅立て井筒に布暖簾　1点
布屋藤原暖簾　1点
布伊暖簾　1点
藤原家過去牒　1点
藤原家過去帳（平成9年）　1点
藤原家に関するメモ　1点
束髪女性の肖像写真　1点
女性の肖像写真　1点
藤原茂男肖像写真　1点
布伊盆　1点
加島銀行南支店記念皿　1点
加島銀行南支店小口当座預金通帳　1点
家屋承認證　1点
倉庫承認證　1点
大阪府警察署長宛届出及び許可書　2点

◇個人寄贈資料
唐人摹右軍 瞻近漢時二帖巻　1点
董其昌筆 前後赤壁賦　1点
成親王筆 黄絹唐詩　1点
王寵筆 七言絶句　1点
張瑞図筆 鷓鴣賦　1点
何紹基筆 四聯幅　1点
呉昌碩筆 集石鼓七言対聯　1点
劉石菴筆　蝋箋洛神賦　1点
弘法大師影像　1点
渡唐天神像　1点
小野道風像　1点
僧形八幡像　1点
地蔵菩薩像　1点
融通念佛縁起　1点
病草紙（模本）　1点
竹取物語絵巻（模本）　3点
聖像 渡辺秀石画　1点
往生講私記 伏見天皇筆　1点
百首和歌 伝頓阿法師筆　1点
唐紙和漢朗詠集切 伝藤原公任筆　1点
兼輔集切　1点
石山切（伊勢集）　1点
尼崎本万葉集切　1点
天治本万葉集断簡（仁和寺切）　1点
名家家集切 伝紀貫之筆　1点
古今和歌集断簡（荒木切）伝藤原行成筆　1点
嘉応切　1点
住吉切 伝藤原俊成筆　1点
御家切 伝藤原俊成筆　1点
補任切 伝藤原俊成筆　1点
大内切 伝藤原公任筆　1点
伊丹切 伝御子左俊忠筆　1点
白河切 伝西行法師筆　1点
朗詠切 伝藤原行成筆　1点
屏風詩歌切 伝藤原行成筆　1点
小倉山荘色紙 藤原定家筆　1点
廣澤切 伏見院筆　1点
歌合切 伝藤原俊忠筆　1点
烏丸切 伝藤原定頼筆　1点
夢記切 伝明恵筆　1点
明月記断簡 藤原定家筆　1点
金剛院切 伝亀山院筆　1点
歌切 伝近衛兼経筆　1点
住吉歌合切 伝寂蓮筆　1点
和歌九首懐紙 伝二条為氏筆　1点
詠草 伝尭孝筆　1点
詩懐紙　1点
後光厳上皇院宣　1点
呉昌碩 竹之図　1点
定家之像　1点
両界曼荼羅のうち金剛界　1点
妙法蓮華経 巻第二、第三、第五、第八　4点
妙法蓮華 巻第一 表紙　1点
妙法蓮華経 巻第七　1点
阿弥陀経　1点
経切 伝吐魯蕃発掘　1点
仁王般若経 巻上、巻下　2点
柿経　10点
大方広仏華厳経 巻第百九（宋版）　1点
賢愚経（大聖武）切 伝聖武天皇筆　1点
弊魔試摩目連経　1点
大方広仏華厳経 巻第三十九　1点
息災護摩法次第私記　1点
大般若波羅蜜多経 巻第三百七、巻第三百三十二　2点
仏説雨宝陀羅尼経　1点
仏説新歳経　1点
醍醐寺所蔵古経 断簡　1点
経 断簡　1点
妙法蓮華経 断簡　1点
僧祇律 巻第十七 断簡（五月一日経）　1点
摩訶般若波羅蜜多心経（隅寺心経）附 憲淳譲状　1点
摩訶般若波羅蜜多心経（複製）　1点
大方広仏華厳経 巻第三十二 断簡（二月堂焼経）　1点
千仏名経 断簡　2点
絵因果経 断簡（過去現在因果経）　1点
四天王経 断簡（五月一日経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第二百三十七（前欠）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第三百四十一、巻第三百四十三、
巻第三百四十四、巻第三百四十六、巻第三百四十七、
巻第三百四十九、巻第三百五十（三聖寺経）　7点
大般若波羅蜜多経（前・後欠）（摂州能勢山田宮経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第一（興善寺経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第二十五（能勢山田宮経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第五十七、巻第四百五十
　（豊前国規矩郡貫岳大権現経）　2点
大般若波羅蜜多経 巻第九十四　1点
大般若波羅蜜多経 巻第三百十八　1点
大般若波羅蜜多経 巻第三百七十三（春日社経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第四百十七　1点
大般若波羅蜜多経 巻第四百七十七
　（大和国山辺郡藤井庄春日社経）　1点
大般若波羅蜜多経 巻第五百十四　1点
大般若波羅蜜多経 巻第百六十七　1点
大般若波羅蜜多経 巻第三百五十三　1点
大般若波羅蜜多経 巻第五百五十三　1点
大般若波羅蜜多経 巻第百五十三、巻第四百三十一
　（誉田八幡宮経）　2点
頻多和多耆經　1点

仏説一切如来金剛寿命陀羅尼経　1点
仏説須頼経（南都善光院一切経）　1点
仏本行集経巻 第四　1点
大乗阿毘達磨集論 巻第七　1点
仁王護国般若波羅密多経 巻下　1点
大日経疏第三鈔　1点
潅頂口伝事　1点
大方広仏華厳経 巻第六、巻第七、巻第三十、
　巻第四十（松尾社一切経）　4点
増壱阿含経 巻第四　1点
雑阿含経 巻第二十八 断簡　1点
正法念処経 巻十六 断簡　1点
仏説最勝功徳円満知死期経
　（裏面：大般若波羅蜜多経 第三百三十六）　1点
貝葉経　8点
伝法灌頂三昧耶戒并両壇作法　1点
無所有菩薩経 巻第一（法隆寺一切経）　1点
雑阿毘曇心 巻第十　1点
未来皇宿劫千仏名経 巻下　1点
過去荘厳却千仏名経 巻上　1点
仏説大方広十輪経 巻第三　1点
説一切有部発智大毘婆沙論 巻第九十三　1点
大仏頂護摩私次第　1点
法隆寺聖皇曼荼羅抜写　1点
南都東大寺伎楽面之図　1点
金光明最勝王経 巻六（断簡）唐経　1点
不明経（断簡）隋経　1点
大乗毘婆娑論（断簡）白鳳初期（推定）　1点
戒律（断簡）光明皇后発願五月一日経　1点
大般若経 巻四百三十五（断簡）和銅五年長屋王願経　1点
不明経（断簡）孝謙天皇勅旨一切経　1点
大方広仏華厳経（断簡）二月堂焼経　1点
大方広仏華厳経（断簡）
　天平勝宝六年元興寺比丘尼真証書写　1点
大般若経（断簡）
　神護景雲元年書写 法隆寺行信願経　1点
不明経（断簡）興福寺永恩経 河内高安玉祖神社経　1点
大般若経（断簡）　1点
不明経（断簡）中尊寺紺紙金銀泥一切経 秀衡願経　1点
不明経（断簡）紺紙金泥経 基衡経　1点
不明経（断簡）神護寺紺紙金泥経一切経　1点
法蔵因縁伝 巻二（断簡）　1点
大般若経 巻四百二十一（断簡）泉州大蔵寺経　1点
法華経 見宝塔品（断簡）　1点
大般若経（断簡）足利矢田判官義清願経　1点
大毘婆娑論 巻百五（断簡）色定一切経　1点
大般若経 巻二百三十（断簡）七ツ寺真福寺経　1点
不明経（断簡）消息経 紺紙金泥経　1点
不明経（断簡）消息経　1点
法華経 巻三（断簡）一字三礼経 弘治二年　1点
無尽意菩薩経 巻二（断簡）神護寺一切経　1点
無言童子経 巻下（断簡）法隆寺一切経　1点
大般若経 巻三十二（断簡）　1点
止規弘決（断簡）　1点
不明経（断簡）荒川経（美福門院願経）　1点
究竟一乗宝性論 巻三（断簡）応永十九年　1点
不明経（断簡）天明元年　1点
太子瑞応経（断簡）　1点
十住心論 巻八　1点
大般若経 巻十（断簡）和銅経　2点
大般若経 巻百五十五（断簡）　1点
不動護摩私記　1点
経類　1点
詩歌 九夏 伏見院筆　1点
手鑑 筆陣　1点
手鑑 住の江　1点
短冊帖 牡丹　1点
手鑑 天香、美帖　2点
八代集 古今和歌集　1点
八代集 後撰和歌集　1点
八代集 拾遺和歌集　1点
八代集 後拾遺和歌集　2点
八代集 金葉和歌集　1点
八代集 詞華和歌集　1点
八代集 千載和歌集　1点
八代集 新古今和歌集　2点
和漢朗詠集　2点
手鑑 松陰帖　1点
手鑑 全兵衛　1点
手鑑 翰墨場　1点
手鑑　1点
歌合切 伝藤原俊忠筆　1点
白砂切 伝慈鎮筆　1点
村雲切 伝寂然筆　1点
右衛門切 伝寂蓮筆　1点
尊朝法親王書状　1点
筆用集　1点
讃岐国頓阿寺法楽和歌 伝蜷川泰親筆　1点
琵琶引一首并序　伝尊円法親王筆　1点
古今和歌集 巻一 断簡　1点
古筆切 一括　1点
三体千字文　1点
古今和歌集 巻十一 断簡 伝源俊頼筆　1点
和漢朗詠集切（万代切）　1点
歌集切 伝藤原定家筆　1点
古今和歌集序 伝尊朝法親王筆　1点
御房丸書状巻 伝尊朝法親王筆　1点
雑歌切 伝寂蓮筆　1点
絹地切 伝小野道風筆　1点
伝慈道法親王書状　1点
詩書「九月無射」伝慈道法親王筆　1点
勅撰二十一代集及源氏物語年暦巻　1点
天神神号 尊朝法親王筆　1点
和漢朗詠集切 伝二条為世筆　1点
和漢朗詠集断簡（嵯峨切）伝京極良経筆　1点
和漢朗詠集（龍田切）伝源家長筆　1点
藤川百首 伝藤原定家筆　1点
大般若波羅密多経 巻第三十七
　（大和国山辺郡藤井庄春日社経）　1点
大般若波羅密多経 巻第七十四　1点
大般若波羅密多経 巻第八十二　1点
大般若波羅密多経 巻第百四十四（玉祖社経）　1点
大般若波羅密多経 巻第二百三十七　1点
大般若波羅密多経 巻第三百五　1点
大般若波羅密多経 巻第四百三十五　1点
大般若波羅密多経 巻第四百六十三　1点
大般若波羅密多経 巻第七十三　1点
大般若波羅密多経 巻第九十　1点
大般若波羅密多経 巻第二百三十九　1点
大般若波羅密多経 巻二百四十七（前欠）　1点
大般若波羅密多経 巻五百六十一（前欠）　1点
大般若波羅密多経 巻二百八十六　1点
大般若波羅密多経 巻第二百九十九　1点
大般若波羅密多経 巻三百四十五
　（和銅五年長屋王願経願文のみ）　1点
版経断簡　4点
経断簡　8点
經断簡　1点

妙法蓮華経 巻第一（前欠） 1点
妙法蓮華経 巻第三（後欠） 1点
妙法蓮華経 巻第四 1点
大方広仏華厳経 巻第二十二（表紙） 1点
大般涅槃経 巻第二十一（前欠） 1点
遺髪経（断簡） 1点
梵網経 巻上、巻下 2点
摩訶般若波羅蜜多心経 1点
法華経断簡 1点
宝篋印陀羅尼経 1点
称讃浄土仏講受経 1点
仏説無量寿経 巻下(前欠) 1点
瑜伽師地論 巻第五十三 1点
妙法蓮華経玄賛（断簡） 1点
木経 2点
古今和歌集切 1点
和歌切 1点
古筆切 1点
發起四諍式 第十七断簡 1点
慈円書状 油蔵主宛 1点
世尊寺行房書状 若狭国司宛 1点
顕俊書状 1点
尊円法親王令旨 般若院僧都宛 1点
先例後証記 1点
詩書 策彦筆 1点
源義経腰越状 伝飯尾常房筆 1点
千利休筆書状 稲右京大夫宛 1点
武野紹鴎書状 1点
御つめ衆御番事 伝楠長諳筆 1点
連歌 里村紹巴ほか 1点
詩書 伝近衛前久筆 1点
細川幽斎消息 生嶋宮内少輔宛 1点
天神神号 伝豊臣秀頼筆 1点
文盛大禅師同門墨跡 1点
和漢朗詠集 伝本阿弥光悦筆 1点
書巻 伝本阿弥光悦筆 1点
本阿弥光悦書状 光院老宛 1点
吉野紀行 伝松花堂昭乗筆 1点
長恨歌 伝松花堂昭乗筆 1点
御道具之覚 佐久間真勝筆 1点
和歌巻 小島宗真筆 1点
詩書七絶 林羅山筆 1点
詩歌巻 法童坊孝以筆 1点
釈教三十六歌仙 渡辺素平筆 1点
臨風抄・仮名文字書様大意 渡辺素平筆 2点
和歌巻 渡辺素平筆 1点
一行書 黄檗木庵筆 1点
東山天皇女房奉書 右大将宛 1点
仮名消息 常子内親王筆 一乗院宛 1点
某散らし書き書状 1点
和漢朗詠集 伝近衛基熙筆 1点
書巻 近衛家熙筆 1点
書巻 近衛家熙筆 1点
近衛家熙書状 一乗院宛 1点
金閣寺勅額草稿・中院通茂書状・葉室頼孝書状合装軸 1点
短冊 平松時量筆 1点
詩書五絶 熊沢蕃山筆 1点
蘭亭記 佐々木池庵筆 1点
和歌巻 山本基庸筆 1点
唐詩五絶 寂厳筆 1点
書巻 中村久越筆 1点
和歌詠草 松平定信筆 1点
松平不味書状 1点
和歌詠草「人丸影供」冷泉為村筆 1点
書巻「酒徳頌」瀧本宗淳筆 1点
与謝蕪村書状 汲古堂宛 1点
千字文 池大雅筆 木村蒹葭堂旧蔵 1点
般若心経画賛 池大雅筆 1点
吉野河花の歌 本居宣長筆 1点
三大字「福聚海」慈雲筆 1点
朱線 伝慈雲筆 1点
頼山陽筆詩書 1点
七言律詩 頼山陽書 1点
「梅の木の」画賛 小林一茶筆 1点
詩書七絶 貫名海屋筆 1点
詩書五絶 中林悟竹筆 1点
書額「以善以為宝」度会梅荘筆 1点
有栖川宮幸仁親王書状 1点
一行書 興正寺本寂筆 1点
三聖雄巻 1点
短冊集 1点
短冊集 5点
短冊双幅 太田垣連月筆 2点
売茶翁・太田垣連月筆喜寿画賛 1点
一行書 山岡鉄舟筆 1点
観花有感詩　山中信天翁筆 1点
詩書七絶 井上馨筆 1点
詩書五絶 犬養毅筆 1点
詩書七絶 伝徳富蘇峰筆 1点
漱石・百年・萬年ほか席上合作幅 1点
俳諧書 河東碧梧洞筆 1点
書額「萬歳」富岡鉄斎書 1点
富岡鉄斎書状 鳩居雨坪宛 1点
詠草「よしの山にて」尾上柴舟筆 1点
書額「間有趣」川谷尚亭書 1点
書額「冲曠」川谷尚亭書 1点
古歌 田中親美筆 1点
書幅「まどかなる」清水比庵筆 1点
書幅「長春」清水比庵筆 1点
天満宮和歌 伝千種有功筆 1点
詩画双幅 永坂石埭筆 2点
豪潮賛 法然上人像 1点
伝白隠筆 戯画賛 1点
伝白隠筆 達磨図 1点
白描源氏物語歌合絵巻 1点
源氏物語図(総角) 1点
束帯天神像 1点
伝土佐筆 絵巻断巻 1点
弘法大師行状絵巻断巻 1点
伝光起筆 官女像(俊成女) 1点
伝光起筆 菅公神像 1点
柿本人麿像 1点
中殿御会図巻（模本） 1点
伝為恭筆 宝船図 1点
伝為恭筆 婦女図素描 1点
伝為恭筆 奠釈図 1点
福富草紙（模本） 1点
伝探幽筆 騎獅文殊菩薩像 1点
伝探幽筆 富士山図 1点
伝尚信筆 福禄寿図・大黒天図・蛭子図 3点
伝友松筆 唐人物図 1点
伝一蝶筆 恵比寿図・大黒天図 2点
伝文晁筆 人物画巻 1点
伝蕪村筆 俳諧十哲図 1点
伝竹田筆 売茶翁図 1点
伝本居宣長自画賛菊図 1点
伝長三洲筆 山水図 1点
菊池容斎筆 小朝拝図 1点

宇喜多一蕙筆 釈尊像 1点
伝鉄斎筆 芭蕉翁像 1点
青嵐筆 騎牛菅公像 1点
王一亭筆 魁星図 1点
東海道五十三次漫画絵巻 2点
吉川霊華筆 波都祢図 1点
伝貫名菘翁筆 山水画賛 1点
人物図扇面 伝冷泉為恭筆 1点
風月三昆図 1点
田中塊堂書「極楽へ」 1点
田中塊堂書「重の内」 1点
田中塊堂書「雨に濡れ」 1点
田中塊堂書「青邨の富士」 1点
田中塊堂書「松の御間へ」 1点
田中塊堂書「俳句」 1点
田中塊堂書「本のしづく抄」 1点
田中塊堂書「すみのえの」 1点
田中塊堂書「防人の歌」 1点
田中塊堂書「芦辺ゆく」 1点
田中塊堂書「ゆく船の」 1点
田中塊堂書「みのりの秋」 1点
田中塊堂書「仮名に生きて」 1点
田中塊堂書「夕月夜」 1点
田中塊堂書「詩」 1点
田中塊堂書「山さむし」 1点
田中塊堂書「鹿谷」 1点
田中塊堂書「梅雨傘」 1点
田中塊堂書「紅華」 1点
田中塊堂書「蛍」 1点
田中塊堂書「祇王寺の」 1点
田中塊堂書「蘭亭一節」 1点
田中塊堂書「大海の」 1点
田中塊堂書 伊勢大輔「いにしへの」 1点
田中塊堂書「神々の」 1点
田中塊堂書「陽にすけて」 1点
田中塊堂書「つくはひの」 1点
田中塊堂書「使い古せし」 1点
田中塊堂書 筍讃「若葉して」 1点
田中塊堂書「東山」 1点
田中塊堂書「御調度の」 1点
田中塊堂書 二首「歳をつて」「いへの風」 1点
田中塊堂書「立田姫」 1点
田中塊堂書「部屋々々の」 1点
田中塊堂書「地は一つ」 1点
田中塊堂書「九十分階段教室」 1点
田中塊堂書「ほととぎす」 1点
田中塊堂書「いたどりに」 1点
田中塊堂書「百までは」 1点
田中塊堂書「佳きことの」 1点
田中塊堂書「二三日」 1点
田中塊堂書 万葉集「あられうつ」 1点
田中塊堂書 正倉院仮名文書 1点
田中塊堂書 正倉院仮名文書 1点
田中塊堂書「ふじの白雪」 1点
斑鳩法眼田中美揮書「南無阿弥陀仏」 1点
田中塊堂書 蘇東坡「読書萬巻通神」 1点
田中塊堂書 梵字「ウン」 1点
猴鹿文硯 1点
鐘形硯 1点
竹節形硯 1点
端渓石三足硯 1点
蓮池水禽文硯 1点
鷸鴴斑硯 1点
瓜形硯 1点
硯 1点
龍濤文硯 1点
竹節形硯 1点
硯 1点
長方硯 1点
楕円硯 1点
霊芝文硯 1点
印材 6点
花熨斗形書鎮 1点
染付瓔珞文茶壷 1点
鉄絵徳利 2点
備前徳利 1点
色絵椿文茶碗 1点
懸仏 1点
懸仏残欠 1点
法隆寺百万塔 1点
梅に鴬形筆架 1点
四君子蒔絵中棗 1点
和泉式部集切 伝藤原行成筆 1点
文徴明前後赤壁賦 1点
大般若波羅蜜多経 巻四百二十一（誉田八幡宮経） 1点
現在賢却千仏名経 巻中 1点
魔訶般若波羅蜜品 第四十六 断簡（法隆寺一切経） 1点
経断簡 五輪塔印あり 1点
経都覚 1点
古今和歌集巻第十八 伝阿仏尼筆 1点

●美術

◇瀧華英子氏寄贈資料
縞帳 1点
縞帳 1点
櫛 10点
簪 24点
笄 12点
鼈甲紛頭飾具揃 7点
イチ止め 2点
相良繍筥迫 1点
革製筥迫 1点
錦製筥迫 1点
筥迫 1点
懐中鏡 3点
柄鏡 1点
莨入 2点
刺繍袋 1点
携帯用文具揃 1点
懐紙挟み 1点

◇丹波順子氏寄贈資料
黒漆塗蝶鮫研出鞘打刀拵 1点

◇三露久男氏寄贈資料
黒地雲鶴文様振袖 1点
白地松檜扇面文様振袖 1点
白地法相華文様織丸帯 1点
赤地檜扇図疋田絞丸帯 1点
白地貝合図綴織丸帯 1点

◇個人寄贈資料
子ども尽くし文様着物地 1点

●考古

◇江谷寛氏寄贈資料
淀川河底採集品一括のうち唐草文軒平瓦（橋寺廃寺） 1点
淀川河底採集品一括のうち巴文軒丸瓦（薬師堂廃寺） 1点

淀川河底採集品一括のうち唐草文軒平瓦（薬師堂廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち五葉唐草文軒平瓦（赤川廃寺）　1点
重弧文軒平瓦（正法寺跡）　1点
淀川河底採集品一括のうち巴文軒丸瓦（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち半裁菊花唐草文軒平瓦
（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち青磁碗（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち青磁碗（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち白磁（底部）（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち白磁碗（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち白磁椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち瓦器椀（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
淀川河底採集品一括のうち土師器皿（赤川廃寺）　1点
墨書土師器（船橋遺跡）　1点
唐草文軒平瓦(正法寺跡)　1点

●芸能

◇森西真弓氏寄贈資料
俳優書画帖　1点
イ菱紋入団扇　1点
初代中村鴈治郎張交小箪笥　1点
御観劇おみやげ手富貴 大阪歌舞伎座　1点
手拭 鴈治郎を偲ぶ會おみやげ 松坂屋　1点
鴈治郎手拭包装袋 松坂屋　1点
簪 成駒屋　1点
簪 高砂屋　1点
鴈治郎飴容器　1点
成駒家飴容器　1点
美術引蜜煎餅封筒 浪花好鴈治郎十二曲　3点
赤穂義士御祝儀袋　1点
イ菱紋入祝儀袋束　1点
大阪歌舞伎座箸袋 イ菱紋入　1点
大阪歌舞伎座ナプキン　1点
イ菱紋入櫛　1点
紙箱 定式幕に隈取 高島屋　1点
イ菱紋入金属製品　1点
袖珍判俳優写真　1点
扇 初代鴈治郎追悼句 昭和10年　1点
「紙治」の研究 附脚本「心中紙屋治兵衛」
歌舞伎叢書第一編 大正14年　1点
上方趣味 鴈治郎艶話 食満南北著 昭和10年　1点
鴈治郎絵姿 初代中村鴈治郎十七回忌追善　1点
初代中村鴈治郎之面影 昭和31年　1点
劇 第9巻12号 昭和6年　1点
中村家歴代似顔絵　1点
梅かのこ：三世歌右衛門伝 伊原青々園 昭和12年　1点
昭和顔見世大観 昭和25年　1点
坂東鶴之助後援会会誌 第一号　1点
芸能通信 第221号　1点
芝居と大阪 第1巻2号　1点
芝居と大阪 第1巻3号　1点
扇雀会会報 第12～30号　7点
演劇博物館の栞　1点
三十三回忌記念初代鴈治郎展パンフレット　1点
五百幼童経表紙 二代目林又一郎　1点
市川新升書状 岸本水府宛 大正11年9月25日　1点
二代目中村鴈治郎書状 橋本忠雄宛
昭和44年3月　1点
二代目中村霞仙書状 昭和44年10月6日　1点
二代目中村鴈治郎死亡記事スクラップ　1点
二代目実川延若襲名摺物　1点
初代中村鴈治郎死亡号外 大阪毎日新聞
昭和10年2月1日　1点
『上方』第四号附録 御布令之訳　1点
祝儀袋スクラップ　1点
祝儀袋スクラップ　1点
祝儀袋スクラップ　1点
イ菱紋入祝儀袋　2点
口上 嵐璃笑・市川市十郎　2点
歌舞伎追番付 筑後芝居 明治7年10月　1点
三府俳優大見立 大正5年1月　1点
歌舞伎追番付 角座 明治41年3月　1点
歌舞伎追番付 弁天座 明治43年4月（毛抜）　1点
歌舞伎追番付 弁天座 明治43年4月（大森彦七）　1点
歌舞伎追番付 歌舞伎座 明治43年6月（桜時雨）　1点
歌舞伎追番付 大阪歌舞伎座 昭和27年4月
（五代目菊五郎追善口上）　1点
歌舞伎辻番付 七人の会結成記念第一回公演
昭和33年8月　1点
歌舞伎パンフレット 大阪歌舞伎座　昭和18年1月　1点
歌舞伎チラシ 宇治山田・新明座 4月6～10日　1点
大阪歌舞伎座六月興行東西合同
大歌舞伎出勤俳優紋帳　1点
人形浄瑠璃二枚番付 浪花座 昭和9年10月　1点
第二回日本因会女子部研究会番付
南地演舞場 昭和4年11月　1点
日本因会女子部研究会会員之章 南地演舞場
昭和4年11月　1点
上演記念伊賀越道中双六 国立文楽劇場　1点
演劇新報第15号 明治18年1月　1点
劇場珍報第121号 明治16年5月　1点
歌舞伎番付（冊子）松嶋・八千代座　大正14年1月　1点
歌舞伎番付（冊子）大阪歌舞伎座　昭和13年2月　1点
歌舞伎番付（冊子）大阪歌舞伎座　昭和18年1月　1点
歌舞伎番付（冊子）大阪歌舞伎座　昭和26年3月　1点
歌舞伎番付（冊子）大阪新歌舞伎座　昭和34年3月　1点
歌舞伎番付（冊子）花梢会 中座　昭和35年1月　1点
歌舞伎番付（冊子）中座 昭和40年8月　1点
歌舞伎番付（冊子）南座 昭和17年11月　1点
歌舞伎番付（冊子）南座 昭和26年5月　1点
歌舞伎番付（冊子）関西実験劇場第六回公演
四ツ橋文楽座 昭和24年12月　1点
歌舞伎番付（冊子）関西実験劇場第八回公演
四ツ橋文楽座 昭和25年5月　1点
歌舞伎番付（冊子）七人の会結成記念第一回公演
昭和33年8月　1点
歌舞伎番付（冊子）仁左衛門歌舞伎第二回公演
道頓堀文楽座 昭和38年7月　1点
歌舞伎番付（冊子）仁左衛門歌舞伎第三回公演
朝日座 昭和39年7月　1点
歌舞伎番付（冊子）仁左衛門歌舞伎第四回公演
南座 昭和40年5月　1点

歌舞伎番付（冊子）矢車座第二回公演
　昭和31年8月　1点
歌舞伎座番組 昭和15年11月　1点
歌舞伎座番組 昭和17年11月　1点
明治座番組 昭和15年11月　1点
第一劇場第2回公演パンフレット 浪花座
　昭和4年9月　1点
第一劇場第3回公演パンフレット 浪花座
　昭和4年10月　1点
第一劇場第5回公演パンフレット 浪花座
　昭和4年12月　1点
第一劇場第2回公演プログラム 浪花座
　昭和4年9月　1点
第一劇場帰阪第一回公演プログラム 浪花座
昭和5年3月　1点
歌舞伎パンフレット 中座 昭和12年2月　1点
歌舞伎パンフレット 大阪歌舞伎座　昭和12年2月　1点
中村鴈治郎三周年追善記念興行パンフレット
　昭和12年2月　1点
歌舞伎パンフレット 大阪歌舞伎座　昭和26年1月　1点
歌舞伎パンフレット 大阪歌舞伎座　昭和26年4月　1点
歌舞伎パンフレット 大阪歌舞伎座　昭和26年9月　1点
歌舞伎パンフレット 弁天座 昭和4年6月　1点
歌舞伎チラシ 新鋭歌舞伎 新開地・湊座 11月　1点
歌舞伎パンフレット 七人の会結成
　記念第一回公演 昭和33年8月　1点
歌舞伎パンフレット 南座 昭和8年12月　顔見　1点
歌舞伎パンフレット 大阪新歌舞伎座　昭和34年3月　1点
歌舞伎チラシ 中座 昭和59年3月　1点
三月大歌舞伎鑑賞のしおり 中座 昭和59年3月　1点
京乃顔見世鑑賞乃栞 昭和32年12月　1点
関西精鋭歌舞伎案内 南座 昭和17年2月　1点
松竹研究座試演会案内 2月　1点
写真 初代中村鴈治郎追善の宴（今中富之助の紙治）　1点
写真 四條南座正面（顔見世）　1点
中村鴈治郎三回忌記念絵葉書　2点
東西合同大歌舞伎記念絵葉書
　中村鴈治郎追慕興行 大阪歌舞伎座　1点
袖珍判写真 初代中村鴈治郎・二代目実川延若　4点
袖珍判写真 初代中村鴈治郎　3点
袖珍判写真 二代目中村鴈治郎　3点
写真 初代中村鴈治郎　37点
絵葉書 初代中村鴈治郎　105点
絵葉書 近松二百年祭口上　1点
絵葉書 放送開始一周年記念（名優科白劇放送）　1点
彩色絵葉書 初代中村鴈治郎　4点
役者絵絵葉書 初代中村鴈治郎 長谷川小信画　3点
役者絵絵葉書 初代中村鴈治郎の紙治　吉川観方画　1点
写真・絵葉書 二代目中村鴈治郎他　28点
写真・絵葉書 二代目林又一郎　8点
写真 中村芳子　1点
写真・絵葉書 中村魁車他　17点
写真・絵葉書 三代目中村梅玉・五代目中村福助他　31点
絵葉書 三代目中村雀右衛門他　8点
絵葉書 二代目市川右団次　2点
絵葉書・写真 二代目実川延若他　45点
絵葉書 近松会創立記念劇朝日座出勤名題　俳優の参詣　1点
写真・絵葉書 十一代目片岡仁左衛門他　27点
写真・絵葉書 十二代目片岡仁左衛門他　30点
写真・絵葉書 十三代目片岡仁左衛門他　30点
写真・絵葉書 六代目嵐吉三郎他　6点
絵葉書 三代目尾上多見蔵　1点
写真絵葉書 市川莚女　1点
絵葉書 嵐璃珏他　2点
写真・絵葉書 三代目阪東寿三郎　2点
絵葉書 二代目中村成太郎　2点
絵葉書 片岡松太郎　1点
写真・絵葉書 車曳・桜時雨他　8点
俳優写真栞　3点
写真・絵葉書 松竹家庭劇　3点
写真・絵葉書 人形浄瑠璃 四ツ橋文楽座　7点
写真 後面白蔵主の二代目林又一郎　5点
俳優写真帖　1点
俳優写真帖　1点

●建築

◇柏原卓之氏寄贈資料
大林組創業五十年記念品「窯青釉八嘉久飾皿」　1点

◇株式会社味園ENERGY寄贈資料
味園ビルホテル客室写真　3点
味園ビルホテル客室キーホルダー　2点
味園ビルホテル客室ドアノブ　1点
味園ビルホテル客室装飾　1点
味園ビル大浴場壁装飾　1点
味園ビルシャンデリア装飾　3点
味園ビル外装タイル　3点
味園ビル宴会場廊下タイル(4枚1組)　1点
味園ビル宴会場廊下タイル　2点

◇瀧華英子氏寄贈資料
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏　1点
印半纏用生地　2点

館蔵品の修復

令和7年度に修復した資料は次の5件5点である。

(1) 名称　福沢諭吉詩書七絶
　数量　1点
　修復概要　巻緒が劣化して、薄葉紙で応急処置しているため紐を交換

(2) 名称　書「南無阿弥陀仏」
　数量　1点
　修復概要　折れ伏せを行い、仏表装に仕立て直す。太巻き、軸にあわせた軸箱を新規調達。

(3) 名称　書「南無大師遍照金剛」
　数量　1点
　修復概要　折れ伏せを行い、仏表装に仕立て直す。太巻き、軸にあわせた軸箱を新規調達。

(4) 名称　御所人形　犬千代丸
　数量　1点
　修復概要　人形体内の砂袋を補修するとともに、ひび割れ、剥離などの部分を補修。

(5) 名称　書画帖　松本奉時ほか筆
　数量　1点
　修復概要　糊離れしている箇所に糊挿しを行い、展示などに耐えうるよう強化。

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●写真撮影

本年度は38点（考古資料1件、歴史資料4件、美術資料21件、建築資料7件）の館蔵資料について撮影を行った。

●図書の受入（令和8年3月31日現在）

本年度は新たに2,661件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,080件、特別観覧献本33件、購入79件、自主刊行物の登録469件である。図書の総点数は、184,649点となった。蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

令和7年度は撮影26件（367点）、実測5件（66点）、閲覧25件（368点）、掲載・掲出114件（410点）、放映20件（49点）、デジタルオンデマンド30件（66点）、その他14件（139点）の計234件（1,465点）の特別観覧があった。

※（　）内は資料点数。件数・点数ともに重複を含む。

館蔵資料等の貸出し

令和7年度に他機関の貸出希望を受諾した資料数は下に掲げた表の通りである（11件84点）。

	申請者	数	展覧会名称	貸出期間
1	大阪府立近つ飛鳥博物館	21	特別展「百済王氏 ― 絶統を紹ぎ興す ― 」	令和7年3月13日～5月28日
2	大阪市立美術館	2	特別展「日本国宝展」	令和7年3月21日～7月24日
3	ソウル歴史博物館	30	特別展「心の交わり、余韻は波のごとく」	令和7年4月17日～7月7日
4	愛知県美術館	2	企画展「近代日本画のトップランナ ― 竹内栖鳳」	令和7年6月28日～9月3日
5	兵庫県立歴史博物館	1	特別展「描かれたお城と城下町 ― 築かれた城・理想の城・古城 ― 」	令和7年7月1日～9月17日
6	和泉市久保惣記念美術館	3	特別展「Over The Waves ― 南蛮・万博・ジャポニスムー」	令和7年8月25日～11月17日
7	尼崎市立歴史博物館	2	特別展「豊臣期の尼崎と建部氏三代」	令和7年9月22日～12月12日
8	高槻市立しろあと歴史館	3	特別展「戦国動乱の畿内 ― 足利将軍家と細川京兆家の分裂 ― 」	令和7年10月9日～12月23日
9	公益財団法人 西宮市大谷記念美術館	9	西宮市100周年 めでたい松展 祝いましょう。松の絵さまざま	令和7年10月14日～12月12日
10	九州国立博物館	1	特集展示「豊臣秀吉とアジアの外交」	令和8年1月6日～2月27日
11	国立故宮博物院	10	特別展「地政から見る国際情勢 ― 明清時代の東アジア」	令和8年2月28日～5月21日

教育普及事業

講座・見学会

●なにわ歴博講座

シリーズ「近現代史研究の新しい風」

8月17日「16mmフィルムから見る20世紀の日常―タイム・カプセルEXPO'70を通して―」奥本未世　43名

9月7日「都市・大阪のなかの「沖縄」―沖縄にルーツを持つ人びとの歴史と文化を知る―」猪岡叶英　72名

シリーズ「海外の考古学と大阪」

1月18日「シルクロードの都市遺跡」田中裕子　105名

1月31日「新羅・加耶を歩く」寺井 誠　158名

シリーズ「学芸員の最新研究」

2月8日　「神々の民俗史 ―民間信仰の神、その流行と変化―」 俵 和馬　133名

●館長講演会

3月20日　退任記念「朝鮮通信使を通じた日韓交流の現在と未来」大澤研一　138名

●「なにわの日」講演会

7月28日「よみがえる古代の都－難波宮跡・内裏地区の発掘と公園の整備について」田中裕子、「後期難波宮と聖武天皇」積山洋氏（大阪公立大学客員教授）136名

●はじめての歴史散歩

「大阪城編」 阿部文和、岡本 健　12月5日　10名、12月7日　14名

「難波宮編」 安岡早穂、田中裕子、豆谷浩之、杉本厚典　11月30日　20名、12月3日　25名

特別展・特集展示など関連の講演会・展示解説

◇特別展「－全日本刀匠会50周年記念－日本刀1000年の軌跡」

- 記念座談会「1000年の伝統を伝える―刀匠が語る日本刀の魅力―」 パネリスト 月山貞利氏、三上貞直氏、宮入小左衛門行平氏、宗昌親氏、久保善博氏（いずれも刀匠）、コーディネータ：坪内哲也氏（全日本刀匠会）、司会進行：内藤直子　4月19日　194名
- 現代刀鑑賞会　4月20日　64名
- 「刀匠といっしょにつくろう！新聞紙でつくる日本刀」　5月5日　31名
- 刀匠ギャラリートーク 冨岡慶正刀匠と宮入陽刀匠のクロストーク（4月5・6日）、明珍宗裕刀匠と月山貞伸刀匠のクロストーク（5月4日）、石田國壽刀匠と小宮國天刀匠のクロストーク（5月10・11日）　4月5日　30名、4月6日　50名、5月4日　90名、5月10日　50名、5月11日　70名
- 「木炭のチカラ体験会―炭で金属をみがこう」 伝統工芸木炭生産技術保存会　5月18日　20名

◇**特別展「正倉院 THE SHOW ー感じる。いま、ここにある奇跡ー」**
- 螺鈿体験ワークショップ　講師：野村拓也氏（螺鈿職人）　7月5日　86名
- ～タケモトピアノ Presents ～ ピアノの日リサイタル　7月6日　160名
- 「科学で紐解く正倉院　～蘭奢待の香り再現プロジェクトに迫る～」中村力也氏（宮内庁正倉院事務所保存課長）、高部圭司氏（京都大学名誉教授）、菅原俊二氏（高砂香料工業株式会社研究開発本部専任研究員）、 コーディネーター：新口絢子氏（フリーアナウンサー）7月26日　218名

◇**特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」**
- 16mmフィルム〈表情1970〉デジタルリマスター上映会「～カプセルに封印された昭和の記録、甦る20世紀の日常～」　9月15日　115名
- わくわく子ども教室　金箔瓦をつくろう、郷土玩具であそぼう　9月21日　15名
- フィールドワーク「朝鮮通信使と大坂」　10月5日　40名

◇**特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」**
- 「学芸員によるスライドトーク」2月1日　141名、3月1日134名
- シンポジウム「河内源氏の宗廟」壺井八幡宮の中世・近世・そして現代 「壺井八幡宮のこれまでとこれから」髙木大明氏（壺井八幡宮　宮司）「中世の壺井八幡宮と通法寺」田中誠氏（四天王寺大学　講師）「近世の壺井八幡宮・通法寺の復興について」谷口正樹　2月14日　211名

◇**特集展示「オープン the タイムカプセル」**
- 16mmフィルム〈表情1970〉デジタルリマスター上映会「～カプセルに封印された昭和の記録、甦る20世紀の日常～」　5月3日　265名
- 展示解説　4月29日　30名、6月8日　30名

◇**特集展示「YABU MEIZAN」**
- 展示解説　9月6日　25名、10月18日　12名

◇**特集展示「デザインの玉手箱・鏢」**
- 展示解説　1月10日　40名

◇**特集展示「郷土玩具が好きー風土と造形の愉しみー」**
- 展示解説　1月24日　35名、2月21日　35名、3月21日　35名

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、ゴールデンウィークや夏休み期間中を中心に実施した。

①「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！ @れきはくコットンプロジェクト」5月3日　95名、5月4日　71名
②「はっけん！“織りもの”のヒミツ」8月11日　21名
③「～なりきり三英傑～戦国武将のお面を作ろう」 8月11日　17名
④特別企画展「大阪の宝 in 大阪歴史博物館」関連イベント「金箔瓦をつくろう、郷土玩具であそぼう」9月21日　15名
⑤「凧づくりと凧あげ」2月7日　16名
⑥「れきはく鉄道の切符をつくろう！」3月20日　15名
⑦「れきはく場所で紙相撲を楽しもう！」3月28日　3名

難波宮遺跡探訪

博物館の開館日に14時、15時の2回にわたりボランティアによる解説を実施した。各回定員20名。5世紀の復元倉庫公開は休止中である。

「XR難波宮」

展示場などに設置した二次元コード（QR）を読み取ることで、スマホ・タブレット上に復元された難波宮の建物群を再現できるコンテンツ「XR 難波宮」を無料で公開している。

ハンズオン

常設展の展示テーマにちなみ、展示物やそのレプリカ等に触れ、体験する事業として、下記を実施した。
- むかしの瓦の拓本体験
  4月12日　30名、6月14日　30名、8月9日　38名、10月11日　28名、12月13日　20名、2月14日　39名
- 両替商体験
  5月10日　30名、7月12日　65名、9月13日　80名、11月8日　54名、1月10日　35名、3月13日　38名

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館２階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、「再発見！大阪城」（3/27 ～ 5/18）、「万博があったころ」（5/22 ～ 7/6）、「シルクロードを辿る」（7/10 ～ 8/24）、「女形と歌舞伎の世界」（8/28 ～ 10/12）、「小泉八雲と明治日本」（10/16 ～ 12/7）、「武士ってどんな人？ －武士のリアルライフ入門－」（12/11 ～ 2/8）、「大阪と相撲の歴史」（2/12 ～ 3/29）の7回の特集を企画し、関連書籍を配架した。開室日は木・金・土・日曜日で、入室者数は21,322名、書庫出納件数は102件、複写利用件数は227件であった。

令和７年度　普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・講演会・見学会	11	854
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・講座・展示解説・見学会	26	2,151
	なにわ歴博　わくわく子ども教室事業	8	253
	石組み水路公開	1	60
	難波宮遺跡探訪	306	4,271
	ハンズオン（むかしの瓦の拓本体験、両替商体験）	12	487
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	4	76
	教育支援（職場訪問）	4	19
	教育支援（出前授業）	4	257
	職業体験	6	9
	考古学体験教室	1	64
	博物館実習・見学実習の受入れ	11	293
地域・その他連携事業	共催事業ほか	7	262
ボランティア関連事業	ボランティア研修	7	167
合計		408	9,223

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、職業体験等を受け入れた。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れを行った。

●学校職員の研修の受け入れ

◇大阪市教員研修（主催：大阪市総合教育センター）
8月5日　大阪市立学校園教員　50名

教員に地域学習のための素材を提供し、大阪歴史博物館の活動への理解と利用促進を図ることを目的とし、実施した。今年は令和6年度に大阪市立中大江小学校3年生を対象に行った地域学習の実例と、「大阪の宝」展で作成した大塩の乱に関する館蔵品のデジタルコンテンツの活用例の紹介を行った。なお、本事業は「教員のための博物館の日」（後述）との同時開催である。

◇中学校教員の2年目研修受け入れ
8月17・18日 大阪市立茨田中学校　　3名

●学校団体（小中学校および高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

◇教育支援
（職場訪問）
6月 5日　　三重県いなべ市立員弁中学校3年生　5名
6 月27日　　大津市立真野中学校2年生　4名
7 月 7日　　大阪府立高津高等学校1年生　6名
7 月28日　　大阪府立桜和高等学校1年生　4名
（出前授業等）
11月 6・7日　大阪市立中大江小学校4年生　来館授業（綿繰り体験）　128名
12月 4日　　大阪府立大手前高等学校１、2年生来館授業（バックヤード見学等）　20名
12月17日　　大阪市立中大江小学校3年生来館授業（難波宮と大阪城の歴史）　109名

◇職業体験
8 月 1 ・ 4 日　大阪府立桜和高等学校2年生　2名
10月23・24日　大阪市立桜宮中学校2年生　3名
11月 6 ・ 7 日　大阪市立東中学校2年生　　4名

●考古学体験教室

本年度は「瓦の拓本」と「難波宮遺跡探訪（学芸員による遺跡案内）」を実施した。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。11月13日に、1校64名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は9大学29名を受け入れ、2期に分けて実施した。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月18日～22日　大阪大学5名、大阪公立大学8名、京都橘大学1名、関西学院大学１名、佛教大学2名、立命館大学２名（計18名）
◇8月25日～8月29日　大阪大学5名、大阪公立大学８名、桃山学院大学1名、大谷大学1名、同志社大学2名、奈良大学2名（計19 名）
◇見学実習は、大阪成蹊大学、京都女子大学、帝塚山大学、近畿大学、甲南女子大学、大阪大学、奈良女子大学、大阪公立大学、四天王寺大学の9大学から合計264名を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、開館以来ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。令和７年度の登録者数は155名、活動日は原則として休館日を除く毎日で、活動日数は307日間、のべ活動人数は2,849名であった。

●日常の活動

◇展示室サポーター（活動者131名、延べ活動人数2,028名）
常設展示室の各階に常駐して、困っている方への声がけや簡単な質問への応対、展示場の見回りなど、来館者のサポートを行う。

◇難波宮遺跡ガイドサポーター（活動者73名、延べ活動人数821名）
博物館の地下に保存された古代の宮殿・難波宮の遺跡を案内・解説するガイドツアーを担当する。

※両方の活動を行うボランティアもいるため活動者の合計は登録者数に一致しない。

●上記以外の活動

各種イベントの際に運営補助を行った。
中学生の職場体験（遺跡ガイドツアー） 8月1・4日　5名、10月23・24日　7名、11月6・7日　6名
考古学体験教室（拓本補助） 11月13日　15名

●研修

4 月 1 日　XR復元倉庫研修　34名
10月30日　拓本研修　17名
11月25日・12月2日　難波京見学研修　29名・26名
3 月25日　発掘研修　24名

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2025「展覧会連携トーク企画 ～学芸員×大学による多視点からのアプローチ～」（主催：大阪市博物館機構ほか）

大阪市立難波市民学習センターにおいて2月20日から3週連続、1日2講座（計6講座）開催された講座において、谷口正樹が2月27日に「特別企画展　河内源氏と壺井八幡宮」と題して講演した。

●教員のための博物館の日2025

大阪市博物館機構事務局が主催し、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する「教員のための博物館の日」に例年参加している。今年度は8月4日に実施し、参加者は23名だった。

●展示への協力

展示協力として、大阪市立美術館主催の特別展「日本国宝展」「妙心寺 禅の継承」に内藤直子を派遣した。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は、公立大学法人大阪、

大阪大学、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪芸術大学グループ、大阪府教育センター附属高等学校、大阪教育大学が会員となり、年間利用者は順に642名、670名、24名、97名、23名、53名の合計1,509名であった。

●大阪公立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪公立大学と締結している包括連携協定事業に基づき、大阪公立大学開講の博物館関連講義へ下記の学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一
- 博物館資料保存論：松本百合子、寺井 誠
- 博物館資料展示論：澤井浩一、豆谷浩之、杉本厚典、阿部文和、島﨑未央

●近畿大学との連携

近畿大学との契約に基づき、下記の博物館学芸員養成課程の講座に学芸員を講師派遣し、受講生の指導にあたった。

- 博物館実習 A（前期）・B（後期） 澤井浩一

地域・その他の連携事業

●NPO法人まち・すまいづくりとの連携

NPO法人まち・すまいづくりとの連携によって、あべのハルカス等での広報事業において協力を得た。また同NPO法人との共催で、日本凧の会大阪の協力のもと、なにわ歴博わくわく子ども教室「凧づくりと凧あげ」（2月7日）を実施した。参加者16名。

●クラブツーリズムとの連携

クラブツーリズムと連携し、マイクロツーリズムをはじめとした旅行企画を定期的に開発、販売、実施した。令和7年度には「秀吉の合戦と城郭」（5/31 16名）、「遥かなる北前船、その足跡を辿る旅」（2/21 26名）、「春を呼ぶ「若狭のお水送り」東大寺・二月堂「修二会」」（3/2 ～ 3 22名）を企画・実施した。

●関西文化の日

11月17日に実施し、常設展示の観覧料を無料とした。計1,472名の観覧者があった。

●関西考古学の日2025（主催:「関西考古学の日」実行委員会）

実施期間：9月1日～ 11月30日　スタンプラリー・景品授与

●大阪府登録文化財所有者の会との連携

大阪府登録文化財所有者の会が主催する「御財印めぐり」事業に協力し、御財印スタンプを大阪歴史博物館内に設置した。実施期間：4月1日～ 3月31日

●JR東海との連携

デジタルスタンプラリー「JR東海 × アイドルマスターコラボキャンペーン企画@大阪　ほんまかいな⁉ This is Osakaコース」のスポットして参画した。実施期間：4月18日～ 6月22日

●OsakaBookOneProjectとの連携

「大阪ほんま本大賞デジタルスタンプラリー」のスポットして参画した。実施期間：11月 1 日～ 12月31日

●大阪迎賓館との連携

7月31日、8月8日　大阪迎賓館とタイアップしたナイトツアーを実施した。参加人数の総計は54名だった。

●NTT都市開発への協力

大阪市による難波宮跡公園北部ブロック整備事業を担当するNTT 都市開発と結んだ協定に基づき、2025年3月28日にオープンした「なノにわ」での難波宮関連事業への助言や当館所蔵画像の提供、「なノにわ」で開催される行事チラシの館内掲出を行った。また、「なノにわ」ではサイネージによる当館開催の特別展・特集展示の広報、ポスター・チラシの掲出などを行い、広報面で相互に協力した。

共催事業

●第41回 歴史学入門講座（主催：第41回歴史学入門講座実行委員会） 8月23日「鎌倉幕府の滅亡をどのように考えるのか―歴史における偶然性と必然性のあいだ―」佐藤雄基氏（立教大学文学部教授） 118名

●第15弾 なにわの宮リレーウォーク（主催：なにわの宮リレーウォーク実行委員会） 11月2日　講演会「埋もれた大阪の城跡をさぐる」岡本 健ほか 128名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を行ってきた。今年度は、講演会・見学会3回について講師を派遣し協力した。また、3月20日の館長講演会の際、友の会で独自に参加者を募った。令和7年度の会員数は155名（家族会員を含む）であった。

文化庁補助金等による取り組み

令和7年度「日本博20を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」ミュージアム活性化実行委員会を、当館および地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館・大阪市立科学館・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・大阪市立中央図書館で構成し、当館は中核館として参画した。博物館機構全体で推進する館蔵資料のデータベース構築、アーカイブ化を進め、「大阪博」におけるインバウンド需要創出事業として常設展示場内で拓本体験などを行った。

展示改修計画

令和3年度に策定した展示改修基本計画に基づき、令和5年度に改修した特別展示室の壁面ケースと独立ケースの一部について空気環境の経過観察を行った。未改修の展示ケースは、文化庁・文化財活用センターの助言を得ながら適切な展示環境の維持に努めた。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が1,171件、特集展示関係が161件、館全体に関する内容・その他が114件であった。大阪市博物館機構より、プレスリリース配信サービス PR TIMESを通じて10件を配信した。（メディア転載315件）

その他の広報宣伝事業

● X（旧 Twitter）での情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。本年度の投稿数は382件、3月31日現在フォロワー数は14,568名である。

●Instagramでの情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。本年度の投稿数は411件、3月31日現在フォロワー数は8,664名である。

●YouTube公式チャンネルでの動画公開

当館のYouTube公式チャンネルにおいて、3本の動画を公開し、これまでに公開された動画数は計66本となった。3月31日現在フォロワー数は1,620名である。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに731,526件、１日平均2,004件のアクセスがあった（前年度比で約80％）。また、1日の最大接続件数は5,281件（令和7年6月29日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

民間連携事業

令和４年度の文科省委託事業「文教施設による多様な PPP/PFI の先導的開発事業」を受け、令和6年度から博物館の付加価値向上と来館者層の拡大を目的として、歴博魅力創造パートナーズ（株式会社JTBコミュニケーションデザイン（JCD）＋MTI株式会社）と事業連携を行い（5ヵ年計画）、レストラン事業、ショップ事業、学び×エンタメ事業、ユニークベニュー事業、広報・情報発信支援事業などの事業展開を行った。今年度の主な実施例として、新規ミュージアムグッズの商品化（7アイテム24商品）、レストランでの展覧会コラボメニューの開発（4展覧会10品目）、学び×エンタメ事業の実施（シルクスクリーン体験、折り紙・缶バッジ体験、妖怪イマーシブイベント、利き酒会など合計11回）、新規来館者に向けたサブ・ウェブサイトの運用（「推せる！なにわ歴博」）がある。

刊行物

令和7年度は下記3点を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要　第24号』
A4判138 頁、令和8年３月

●『共同研究成果報告書18』
A4判60頁、令和8年3月

●『大阪歴史博物館年報　令和６年度』
A4判28頁、令和7年10月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては２テーマ、基礎研究においては5テーマを実施した。

●共同研究

◇古代難波における難波宮と古道の関係に関する研究
担当：李 陽浩、田中裕子
外部研究員：積山 洋氏（大阪公立大学）、
村元健一氏（関西大学）

◇浄照坊所蔵文化財の悉皆調査ならびに研究
担当：北上真生、中野朋子、岩佐伸一、谷口正樹、
猪岡叶英

●基礎研究

◇文字情報に注目した大阪歴史博物館所蔵の農具に関する基礎的研究
担当：俵 和馬

◇刀剣刀装具・甲冑等の展示方法調査　担当：内藤直子

◇近代の大阪における興行と街づくりの関係についての研究
担当：奥本未世

◇豊臣大坂城における瓦の基礎調査　担当：岡本 健

◇大阪と江戸・東京との都市比較史研究
担当：豆谷浩之

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

◇基盤研究（C）：内藤直子
研究分担者：岩佐伸一
「京金工・大月光興の研究-「文人金工」像の確立のために」

◇基盤研究（C）：寺井 誠
「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」

◇基盤研究（C）：李 陽浩
「ゴヒラ使いの消長からみた古代建築の構法的変化に関する実証的研究」

◇基盤研究（C）：加藤俊吾
「文化資源としての伝世陶磁器３Ｄモデル作成の手法構築と普及」

◇基盤研究（C）：杉本厚典
研究分担者：豆谷浩之
「産業マップ作成による江戸･大坂の産業分布構造のモデル化」

◇基盤研究（C）：中野朋子
「「美術商会」と近代大阪の工芸作品の輸出に関する基礎研究」

◇基盤研究（C）：奥本未世
「大阪劇場とOSSK―舞台意匠を軸にした都市発展の関係についての研究」

◇研究活動スタート支援：猪岡叶英
「沖縄出身者による祖先祭祀の継承と実践―大阪を中心に―」

◇研究活動スタート支援：田中裕子
「倭国における外交儀礼の受容について―前期難波宮朝堂の向きと儀礼動線を中心に―」

【外部機関の研究分担者】

◇基盤研究（C）：李 陽浩
研究代表者：南秀雄（(公財）古代学協会 客員研究員）
「日本列島と朝鮮半島南部の初期都市の比較研究―
「国」を越えた社会基盤解明の試み」

◇基盤研究（C）：島﨑未央
研究代表者：塚田 孝（大阪公立大学 客員教授）
「近世身分社会における巨大都市大坂の周縁的社会構造―周辺村方史料から照射する―」

個人の調査研究活動

●大澤研一

- 専門分野
  (1) 日本中世史、大阪地域史
  (2) 都市史、中世史
  (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について
- 著述

「菓子提供からみた通信使迎接―大坂の事例を中心に―」（日・韓文）『朝鮮通信使研究』第39号、pp. 101-133、令和7年6月

「朝鮮通信使が結んだ日本と朝鮮 ― 対馬の存在に注目しつつ ―」（中文）『故宮文物月刊』516号、國立故宮博物院、pp. 30-38、令和8年3月

『朝鮮通信使と大阪　第2期』24 ～ 31「通信使が見た大坂―使行録を読む―1617年：李景稷『扶桑録』⑬～⑯」、「通信使が見た大坂―使行録を読む―1624年：姜弘重『東槎録』①～④」駐大阪韓国文化院ホームページ、令和7年6月～ 8月、10月～ 12月、令和8年1月

•口頭発表
「菓子提供からみた通信使迎接―大坂の事例を中心に―」通信使学会、釜山海雲台ヌリマルホール、令和7年4月
「朝鮮通信使にとっての大坂―大坂城・幕府・通信使船―」朝鮮通信使縁地連絡協議会大阪大会、本願寺津村別院、令和7年5月
「朝鮮通信使が見た大坂」大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館、令和7年5月
「大阪歴史博物館蔵「辛基秀コレクション」について」シンポジウム「国際学術大会「通信使」、ソウル歴史博物館、令和7年5月
「新時代の大坂を切り開いた商人たち ― 17世紀の淀屋と平野に人びとを中心に ―」淀屋研究会、大阪産業創造館、令和7年5月
「平和な隣国関係の象徴・朝鮮通信使 ―再現された通信使船を大阪に迎えて―」三親会、三井物産、令和7年5月
「決戦！織田信長と本願寺の10年戦争」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル・北御堂ミュージアム、令和7年6月
「四天王寺とその周辺」大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館、令和7年6月
「일동장유가에 나오는 오사카 풍경：日東壮遊歌にあらわれた大阪風景」武寧王国際ネットワーク協議会他、国立公州大学校公州学研究院、令和7年6月
「河内門徒と本願寺―中世を中心に―」河中北組総代会、ホテルセイリュウ、令和7年7月
「続なにわ おおさかを創った人物像」顕如・細川ガラシャ・成安道頓と岡田心斎・徳川大坂城はどう築かれたのか・デ・レーケと沖野忠雄、銀杏生涯学習会、大阪市立阿倍野市民学習センター、令和7年7月～9月
「織田信長・本願寺の戦いと一向一揆　～ 一揆は何を求めたのか ～」第32回全国山城サミット白山大会実行委員会、白山市松任文化会館 ピーノ、令和7年9月
「大阪の歴史と古道―梅田街道を中心に―」福島区歴史研究会・福島図書館、NORBDENCE福島区民センター、令和7年10月
「細川ガラシャと大坂」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル・北御堂ミュージアム、令和7年10月
「BMN × OBOP 大阪超マニアック対談　大阪人も驚く大阪超マニアック対談」BMN × OBOP、OMMビル、令和7年11月
「橋を愉しむ―景観と歴史のなかで―」近鉄文化サロン阿倍野、近鉄文化サロン「and」、令和7年12月
「徳川家康を苦しめた男・真田信繁」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和7年12月
「浪華の風景今昔―江戸時代の姿を訪ねて―」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和7年12月
「歴史に学ぶ平野郷　―在地都市の歩みと魅力―」大阪府高齢者大学校　大阪の史跡探訪科、NPO法人大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館、令和8年１月
「元亀三年本願寺実悟の「堺紀行」をめぐって」堺市博物館共同研究「中世堺における歴史文化に関する学際的研究」、堺市博物館、令和8年1月
「上町台地周辺の古道―尾根道と熊野街道―」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和8年1月
「秀長と大和郡山城下町」平野区画整理記念会館、令和8年1月
「融通念仏信仰の広がりと河内」八尾市、八尾市役所、令和8年1月
「朝鮮通信使にとっての淀川」水都の会、本願寺津村別院、令和8年2月
「今、注目される城東区の歴史アラカルト」城東区ゆめ～まち～未来会議/城東区役所、城東区民センター、令和8年2月
「紀州街道をたどる」NPO法人シニア自然大学校、高田屋大手前ビル、令和8年2月
「朝鮮通信使を通じた日韓交流の現在と未来」大阪歴史博物館、令和8年3月
「泉州における真宗の展開と願泉寺」貝塚市、願泉寺、令和8年3月
•その他
大阪城天守閣資料収集・評価会議委員、令和7年6月（仮称）堺ミュージアム基本構想検討懇話会構成員、令和7年7月～令和8年3月
NHK「大河ドラマ”豊臣兄弟！”がもっと面白くなる！天下統一へのモノがたり」出演、令和8年3月

●澤井浩一
•専門分野
（1）畿内村落における祭祀組織の研究
（2）近畿地方を中心とした芸能史研究
（3）大正・昭和初期の大阪における興行史の研究
•著述
「大阪ヒストリー百色眼鏡　天神祭」『まちなみ』563、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和7年7月
•口頭発表
「近松門左衛門作品でたどる大坂」シニアCITYカレッジ「文 学を楽しむ科」、令和7年5月20日
eo光テレビスペシャル「関西の祭―住吉大社御田植神事」解説　令和7年6月14日
「大阪の怪異伝承」大阪自由大学「新・大阪学事始」、 令和7年10月1日
「なにわの芸能～大坂歌舞伎・人形浄瑠璃」、とよなか市民カレッジ「人生100年を楽しく学ぶ科」、令和7年11月18日
•その他
大阪府文化財保護審議会委員　　令和7年度中
大阪府公文書館運営懇談会委員　令和7年12月23日
吹田市立博物館運営協議会委員　令和7年度中

●松本百合子
•専門分野
（1）考古学
（2）仏教美術史、近世製油業の研究
（3）近世貿易陶磁の研究
•口頭発表
高松城の復元を進める市民の会・秋の講演会「蔵屋敷の蔵と産物―高松藩大坂蔵屋敷の場合」香川県立ミュージアム、令和7年11月29日
•その他
「春を呼ぶ〈若狭のお水送り〉東大寺・二月堂〈修二会〉」講師、 クラブツーリズム株式会社、令和8年3月2・3日

●李 陽浩
•専門分野
（1）建築史・都市史
（2）古代東アジア建築史
（3）建築技法からみた難波宮の復元的研究
•共編著
『前期難波宮・藤原宮の儀礼と空間構成』、八木書店、令和8年8月（海野聡氏と共編）
•著述
「難波の銭貨工房」、『古代文化』77巻2号、公益財団法人古代学協会、pp.68-70、令和7年9月
「前期難波宮朝堂院の空間構成」、海野聡・李陽浩編『前期難波宮・藤原宮の儀礼と空間構成』、八木書店、pp.45-79、令和8年2月
「難波宮の発掘調査と山根徳太郎氏」、奈良文化財研究所・

大阪歴史博物館編『ここまでわかった聖武天皇の宮：平城宮・恭仁宮・紫香楽宮・難波宮』、吉川弘文館、p.123、令和9年3月
「「不可殫論」ノート：『日本書紀』にみえる特徴的な表現とその由来」、『共同研究成果報告書18』、大阪歴史博物館、pp.30-42、令和8年3月
「前期難波宮の論点」、『条里制･古代都市研究』41号、条里制･古代都市研究会、pp.39-48、令和8年3月
•口頭発表
「前期・後期難波宮を考える」、シニアCITYカレッジ講座総合文化科、シニア自然大学校、令和7年10月1日
「地域の博物館における歴史文化遺産の保全と活用：大阪歴史博物館開催の2つの展覧会を例に」、地域歴史遺産保全活用基礎論B、神戸大学大学院人文学研究科、令和7年11月13日

●内藤直子
•専門分野
（1）京金工の研究
（2）大月派の研究
（3）京後藤家の研究
（4）近代大阪の工芸史研究
•著述
「日本の刀剣・刀装具」、エルメス財団編『金属：savoir & faire』、岩波書店、令和7年10月
「刀剣を語ることば」『図書』926号、岩波書店、令和8年2月
編著『京金工・大月光興の研究―『文人金工』像の確立のために（科研報告書）』令和8年3月
「京後藤家作品論―五島美術館所蔵品を中心に」『五島美術館研究紀要』14、令和8年
「高砂山高欄修理報告」『長浜曳山祭高砂山修理報告書』公益財団法人長浜曳山文化協会、令和8年3月
•雑誌連載
「学芸員のRockなTalk」『刀剣画報』令和7年4月～令和8年3月
•図録執筆
『特別展　日本国宝展』大阪市立美術館、令和7年4月（コラム、作品解説）
『特別展　―全日本刀匠会50周年記念―日本刀1000年の軌跡』
大阪歴史博物館、令和7年4月（章解説、コラム、作品解説）
•口頭発表
「日本刀を楽しむ ―「日本刀1000年の軌跡展」ご見学前の予備知識―」歴史街道倶楽部　歴史ものがたりセミナー、令和7年5月
「モノを「評価」するということ―刀剣・刀装具と大阪の近代工芸を例として」美術史学会全国大会当番校企画「〈美術〉史を超えて」、令和7年5月、於大阪大学会館
•調査活動
東京大学史料編纂所　共同研究員
文化庁　非常勤調査員
日野祭総合調査委員会　主任調査委員
三国祭総合調査委員会　調査委員
談山神社　共同研究員
科研費（基盤C　課題番号20K00205）による調査研究
兵庫県安富町安志神社所蔵変わり兜調査
•委員受嘱
一般社団法人 刀剣文化研究保全機構　助成金審査員
亀山市歴史博物館　専門委員会専門委員
京都国立博物館文化財購入買取協議委員
京都国立博物館列品等修理請負業者選定委員
長浜曳山祭行事・曳山保存専門委員会委員
大津祭保存会保存修理専門委員
日野曳山保存会保存修理専門委員
全日本刀匠会「お守り刀展覧会」審査員

●中野朋子
•専門分野
（1）美術史・服飾史
（2）近代工芸史、近世服飾史
（3）近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究
•著述
「宮本君山筆『御ぐしあげ』と近世後期上方の髪型」、『ビューティサイエンス学会誌』第10号、pp.18-31、令和7年8月
河﨑經吉と新出の捺染布見本帖」、『大阪歴史博物館 研究紀要』第24号、大阪歴史博物館、pp.27-40、令和8年3月
「水都大阪に架けられた「くろがね橋」の衝撃―大阪・高麗橋の鉄橋が描かれた皿―」、藝術文化雑誌『紫明』第58号、pp.8-13、令和8年3月
•調査活動
科学研究費補助金（基盤研究(C)25K03694「「美術商会」と近代大阪の工芸作品の輸出に関する基礎研究」）により、大阪、京都、千葉で調査を行った。
大阪歴史博物館共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」により、大阪市天王寺区において調査を行った。館蔵の捺染見本帖にかかる調査を大阪、兵庫で行った。
•教育活動
大阪藝術大学「服飾史」非常勤講師
•その他
「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～“大阪歴史散策”」（「昭和初期の大阪のよそおい文化」）NHKラジオ第1放送、令和8年5月10日

●杉本厚典
•専門分野
（1）日本考古学
（2）産業マップ
•著述
「中之島・堂島蔵屋敷跡出土品にみる19 世紀の献上・贈答について」『大阪歴史博物館研究紀要』第24号、令和8年3月、pp.21-37
「大坂「天下の台所」～その地下に隠された秘密」『まちなみ』2025年10月号 一般財団法人大阪府建築士事務所協会、pp.17-18、令和7年10月
「伝・山城国相楽郡銭司採集品について ―当館所蔵の鋳銭関連遺物の紹介と銭司遺跡出土資料との比較を中心に―」『大阪歴史博物館 研究紀要』(24)、pp. 65-74、令和8年3月
（田中裕子・岡本 健と共同執筆）
•口頭発表
「大坂蔵屋敷～「天下の台所」の原動力を発掘する」、淀屋研究会、大阪駅前第3ビル22階鳥取県関西本部交流室、令和7年7月19日

●阿部文和
•専門分野
（1）日本建築史
（2）建築儀礼と棟札に関する研究

●加藤俊吾
•専門分野
（1）考古学、考古学史、博物館史
（2）文化財の三次元データ化とその利活用

・ポスター発表
「文化資源としての伝世陶磁器3Dモデル作成の手法構築と普及」［於：『2025年度公開シンポジウム＆XRミートアップ 文化財#4東京「デジタルで高まる文化財の魅力」』 令和8年3月28日　東京国立博物館］（＊仲林篤史氏と連名）

●安岡早穂
・専門分野
（1）考古学
（2）前近代漁撈
（3）食文化史

●谷口正樹
・専門分野
（1）日本中世史
（2）都市史、地域社会論
（3）戦国期地域社会構造の変容過程
・著述
「戦国期の摂河泉における禁制について」『大阪公大日本史』28号、pp.21-43、令和7年5月
「戦国期の武家権力と門前町―厳島と杵築を例に―」 仁木宏編『中世武家拠点の研究』、高志書院、pp.325-363、 令和7年5月
「河内源氏と壺井八幡宮」『まちなみ』2025年12月号、pp.17-18、令和7年12月
・口頭発表
「中世城館研究における軍記資料利用の可能性―大阪歴史博物館共同研究の成果報告から―」関西軍記物語研究会、令和7年4月
「「武士のふるさと」壺井の歴史」大阪府民カレッジ、令和7年5月
「高山右近」シニア自然大学校、令和7年5月
「太平の世への道のり」シニア自然大学校、令和7年10月
「戦国時代の物流と都市大坂」シニア自然大学校、令和7年11月
「特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」学芸員によるスライドトーク」大阪歴史博物館、令和8年2月、3月（全2回）
「近世の壺井八幡宮・通法寺の復興について」大阪歴史博物館シンポジウム「河内源氏の宗廟」壺井八幡宮の中世・近世・そして現代、令和8年2月
「河内源氏と壺井八幡宮」歴史街道倶楽部・歴史ものがたりセミナー、令和8年2月
「河内源氏と壺井八幡宮」川西市清和台公民館、令和8年2月
「河内源氏と壺井八幡宮」ミュージアム連続講座「展覧会連携トーク企画 ～学芸員×大学による多視点からのアプローチ～」、令和8年2月
・調査活動
大阪歴史博物館調査研究事業「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査ならびに研究」に伴う浄照坊の調査
特別企画展「河内源氏と壺井八幡宮」に伴う壺井八幡宮所蔵品の調査
・その他
大阪はびきの観光局「大阪歴史博物館学芸員と歩く「壺井八幡宮と河内源氏の史跡」アテンド、令和8年3月

●田中裕子
・専門分野
（1）考古学
（2）日本都城史、中国都城史、冶金考古学
（3）難波宮の成立・展開に関する研究、古代日中関係史の研究、古代冶金技術史の研究
・著述
「後期難波宮と後期難波京について」『条里制･古代都市研究』(41)、pp.109-120、令和8年3月
「後期難波宮跡における宮域東辺地区の区画施設の性格」『大阪歴史博物館 共同研究成果報告書』(18)、pp.44-54、令和8年3月
「伝・山城国相楽郡銭司採集品について ―当館所蔵の鋳銭関連遺物の紹介と銭司遺跡出土資料との比較を中心に―」『大阪歴史博物館 研究紀要』(24)、pp. 65-74、令和８年３月（岡本 健, 杉本 厚典と共同執筆）
史跡難波宮跡公園の整備」『まちなみ』vol.50(no.569)、pp.21-22、令和8年3月
・口頭発表
「難波宮跡公園の整備について」、第82回南大江郷塾、令和7年6月17日
「よみがえる古代の都－難波宮跡・内裏地区の発掘と公園の整備について」、令和7年度なにわの日講演会、令和7年7月28日
「中国都城における『朝堂』の変遷について」、日本中国考古学会2025年大会、令和7年12月7日
「シルクロードの都市遺跡」、令和7年度なにわ歴博講座：シリーズ海外の考古学と大阪、令和8年1月18日
「難波宮跡内裏地区の発掘成果と公園整備」、平城京歴史講座、令和8年3月14日
・調査活動
科学研究助成基金助成金（研究活動スタート支援25K23046）「倭国における外交儀礼の受容について―前期難波宮朝堂の向きと儀礼動線を中心に―」により、大阪府、奈良県などで調査活動を行った。
・その他
奈良女子大学「博物館展示論」（後期）非常勤講師
大阪市中央区「見てある記:難波宮･大阪城エリア」案内人、令和7年11月1日

●倭 和馬
・専門分野
（1）民俗学
（2）環境民俗学
（3）自然観、生業、民具、民間信仰、文化資源
・著述
「鼬川をめぐるフォークロア―地名由来伝承と鼬の姿―」『アベノバシ半径2kmプロジェクト　2025年度活動報告』（芳泉文化財団令和7年度地域文化活性化助成）、pp.14-17、令和8年3月
「初姫大明神に関する一考察―流行神研究を参考に―」『大阪歴史博物館研究紀要』第24号、pp.39-54、令和8年3月
・口頭発表
「博物館と民俗学―何を残し、何を伝えるのか―」博物館概論・自校学習（ゲストスピーカー）、令和７年5月20日
「神々の民俗史―民間信仰の神、その流行と変化―」なにわ歴博講座、大阪歴史博物館、令和8年2月8日
「太子を助けた鼬たち―アベノバシ半径2kmの神話的想像力」、フォーラム「アベノバシ半径2kmの現在×過去×未来―鼬川と大阪美術学校を中心に」、アベノバシ半径2kmプロジェクトの会（芳泉文化財団令和7年度地域文化活性化助成）、令和8年3月8日
・調査活動
令和7年8月18日～8月19日・令和8年1月7日　和歌山県紀美野町の民俗調査
・その他
「人と動物の民俗史―畏れつつ、敬うこと―」、関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～“大阪歴史散策”、NHKラジオ第1放送、令和8年1月9日

●奥本未世

• 専門分野
（1）歴史学
（2）日本近現代史
（3）近代文化、舞台意匠にかかわる研究

•著述
「博覧会と化学繊維」『まちなみ』2025年5月号、一般財団法人 大阪府建築士事務所協会、pp.17-18、令和7年5月
「「ある１日の記録」と〈表情1970〉―タイム・カプセル EXPO'70収納品2点について―」『大阪歴史博物館研究紀要』第24号、pp.75-88、令和8年3月
「OSKと舞台装置家･山田伸吉」『関西大学なにわ大阪研究』第8号、pp.27-44、令和8年3月

• 口頭発表
「16mm フィルム〈表情1970〉デジタル化について」『JAM2025 ～ JAMIA Annual Meeting ～「映像アーカイブの“今”を語り合う」』ライトニングトーク 後篇、令和7年6月28日

• 調査活動
関西大学なにわ大阪研究センター　非常勤研究員
科研費（基盤C　課題番号：25K03795）による調査研究

●寺井 誠

•専門分野
（1）考古学
（2）日本列島と朝鮮半島の交流史
（3）弥生～平安時代の土器製作技法（特にタタキ技法）の研究

•著述
「論文展望　日本列島・朝鮮半島の木製タタキ板について」『季刊考古学』第172号　雄山閣出版、pp. 116-117、令和7年7月

•口頭発表
「細工谷遺跡と百済―BaekjeとKudaraのはざまで―」 大阪歴史博物館（大阪府立近つ飛鳥博物館の主催事業） 令和7年4月12日
「古代難波と百済について」NHKラジオ第一『関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～“大阪歴史散策”』 令和7年9月13日放送
「新羅・加耶を歩く」 大阪歴史博物館、令和８年１月31日

•調査活動
科学研究費補助金（基盤研究（C） 22K00994「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」）により、韓国慶尚南道、石川県、富山県、秋田県などで実物資料調査を行った。

●岩佐伸一

•専門分野
（1）美術史
（2）日本絵画史
（3）江戸時代後期の上方の絵画

• 著述
「第4章　江戸時代中後期の鴨東における文化人について―光興の聖護院村転居にちなんで―」令和２～６年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書『京金工・大月光興の研究―「文人金工像」の確立のために』、pp.52-62、令和8年3月
「一枚摺 《京都大坂　近附になつてよい人　一度はいてよい處》」『大阪歴史博物館　研究紀要』第24号、大阪歴史博物館、pp.41-50、令和8年3月

•口頭発表
「定信上洛時の記録に見る文化財へのまなざし―「感徳録副軸」と「輿上清雅」を中心に―」國學院大學國史学会10月例会 シンポジウム「松平定信の「知」と「古」の革新」、國學院大學、令和7年10月11日

●岡本 健

•専門分野
（1）日本考古学
（2）中世・近世考古学
（3）戦国・織豊期における造瓦活動・城郭の研究

•著述
「地形環境からみた摂津国中島の中世城館―野田・福島合戦における利用に着目して―」『同志社大学考古学シリーズⅩⅣ 考古学と文化史２』同志社大学考古学研究室、pp.531-542、令和7年4月
「近世・近畿」『考古学ジャーナル』第810号、ニューサイエンス社、pp.111-113、令和7年5月
「徳川期大坂城における同文瓦の一例」『城郭談話会 勉強会報告第3号―髙田徹さん還暦記念号―』令和7年8月
「大阪市の中世城館」『まちなみ』2025年9月号、一般財団法人大阪府建築士事務所協会、pp.17-18、令和7年9月
「伝・山城国相楽郡銭司採集品について―当館所蔵の鋳銭関連遺物の紹介と銭司遺跡出土資料との比較を中心に―」『大阪歴史博物館研究紀要』第24号、pp.65-74、令和8年3月（田中裕子・杉本厚典と共同執筆）

•口頭発表
「埋もれた大阪の城跡をさぐる」第15弾 なにわの宮リレーウォーク2025 講演会、令和７年11月（積山洋氏と共同発表）
「長尾コレクションの伝・山城国相楽郡銭司採集品について」2026年出土銭貨報告会、令和8年2月（田中裕子と共同発表）
「出土瓦からみた豊臣大坂城の本丸」博学連携シンポジウム「豊臣時代の大坂 研究最前線」、令和8年3月

•調査活動
令和7年10月28日　篠山城跡出土瓦の調査
館蔵考古資料採集地の現地調査
令和7年4月5日　銭司遺跡、恭仁宮跡（木津川市）
令和7年5月16日　海会寺（泉南市）
令和8年3月12日　奥山廃寺、岡寺、川原寺、橘寺、坂田寺（明日香村）

• その他
NHK総合テレビ「大河ドラマ「豊臣兄弟!」がもっと面白くなる！ 天下統一へのモノがたり」のうち「大坂城と郡山城の“兄弟瓦”」VTR出演、令和8年3月16日放送

●豆谷浩之

•専門分野
（1）日本近世史・近世考古学
（2）近世都市史
（3）大名等の大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

•著述
「蔵屋敷と大坂の都市開発」（一財）大阪府建築士事務所協会『まちなみ』p.17-18　令和7年11月
「江戸時代前期の大坂蔵屋敷の船入について」『大阪歴史博物館研究紀要』p.55-63　令和8年3月

•口頭発表
「古文書からみた喜連村の諸相」 喜連村史の会　令和8年1月10日
「中之島界隈蔵屋敷跡」大阪府高齢者大学校　令和8年2月4日

•大学での講義
大阪大学「博物館学概論」（前期）

・その他
市民の古文書学習支援（喜連村史の会）令和7年4月19日、5月17日、6月21日、7月19日、9月20日、10月18日、11月15日、12月20日、 令和8年 1 月17日、2月21日、3月21日

●島﨑未央

・専門分野
（1）日本近世史
（2）流通社会史、都市史、村落史
（3）灯明油の生産と流通

・著述
「都市周縁の水辺と開発 ―幻の鼬川拡幅計画を読み解く―」『アベノバシ半径2kmプロジェクト　2025年度活動報告』（芳泉文化財団令和7年度地域文化活性化助成）、pp.20-24、令和8年3月

・口頭発表
「アベノバシ2km圏内の水運と村方 ―文化年間の四天王寺再建と天王寺村に注目して―」アベノバシイチノジュウニのよん、令和7年8月11日
「安井九兵衛（・平野次郎兵衛）請所の材木置場の運用について」成舞家文書を読む会（オンライン）、令和7年12月13日
「都市周縁の水辺と開発 ―幻の鼬川拡幅計画を読み解く―」フォーラム「アベノバシ半径2kmの現在×過去×未来―鼬川と大阪美術学校を中心に」、アベノバシ半径2kmプロジェクトの会（芳泉文化財団令和7年度地域文化活性化助成）、令和8年3月8日

・その他
「大坂城の下掃除と鴫野村」、関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱～“大阪歴史散策”、NHKラジオ第1放送、令和7年7月12日
大阪公立大学「博物館展示論・歴史展示」 令和7年11月7日
クラブツーリズムツアー「遥かなる北前船」第1回「天下の台所大坂と北前船」令和8年2月21日

●北上真生

・専門分野
（1）日本史学・日本文学
（2）近世文化史・近世政治史・近世文学
（3）大阪における御用菓子司の研究、三田藩九鬼氏の基礎的研究、「志摩軍記」の基礎的研究

・著述
「のれん紹介　総本家小鯛雀鮨すし萬」『甘辛のれん会のれん誌』12月号、甘辛のれん会、令和7年12月
「のれん紹介　大阪の駿河屋」『甘辛のれん会のれん誌』12月号、甘辛のれん会、令和7年12月
「〈資料紹介〉円悟寺所蔵「志州七嶋由来記」について」『同志社国文学』104号、同志社大学国文学会、pp.45-57、令和8年3月
「大坂城本丸御用菓子司・駿河屋について」『大阪歴史博物館研究紀要』第24号、大阪歴史博物館、pp.1-26、令和8年3月

・口頭発表
「九鬼嘉隆・守隆～九鬼水軍の盛衰と近世大名・九鬼家のあゆみ～」シニアCITYカレッジ、高田屋大手前ビル、令和7年6月9日
「なにわ菓子物語」大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館東館、令和7年9月17日
「大阪周辺の大名について― 三田藩・九鬼家および麻田藩・青木家を中心に ―」淀屋研究会、大阪駅前第３ビル22階・鳥取県関西本部交流室、令和7年9月20日
「江戸時代のなにわ名医列伝」大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館東館、令和7年10月1日
「大阪に華ひらいた社家文化」大阪府高齢者大学校、大阪市教育会館東館、令和7年10月15日
「大阪近郊の小大名―三田藩九鬼家と麻田藩青木家―」大阪さくら会、大阪辯護士會館、令和7年11月25日
「幕末期における大阪の菓子文化と菓子業界の動向」甘辛のれん会令和7年度定時総会卓話、美々卯本町店、令和8年3月18日

・調査活動
浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究（大阪歴史博物館共同研究）、令和7年4月1日～令和8年3月31日
円悟寺所蔵文化財の悉皆調査（丹波市教育委員会・氷上郷土史研究会との合同調査）、令和7年11月1日～令和8年3月31日

・その他
三田天満神社宝物の保存環境および管理にかかる指導・助言、令和7年4月1日～令和8年3月31日
三田市郷土先哲顕彰会幹事、令和7年4月1日～令和8年3月31日

●猪岡叶英

・専門分野
（1）日本近現代史、民俗学
（2）在阪沖縄出身者の人生儀礼および祖先祭祀に関する研究

・著述
「大阪と米騒動」『まちなみ』562、pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和7年6月
「書籍紹介　鳥越皓之著『「おもろさうし」現代詩訳―琉球国の叙事詩―』」『近畿民俗』192号、p.107、令和8年3月

・口頭発表
「西淀川と普久原朝喜―沖縄コミュニティとのつながりを中心に―」、国際日本学研究会、令和7年8月2日
「ある在阪沖縄出身者による祖先祭祀の継承と実践にみる語りなおし」、日本オーラル・ヒストリー学会第23回大会、令和7年9月13日
「博覧会と近代大阪の産業発展」、大阪府民カレッジ富田林校短期講座、令和7年10月14日
「沖縄出身者が祖先祭祀を引き継ぐということ―沖縄市の事例から―」日本民俗学会第77回年会オンライン、令和7年11月8日
「川岸八幡神社の秋祭り」五條市史民俗部会、令和8年3月9日

・調査活動
学術研究助成基金助成金（研究活動スタート支援　24K22567）「沖縄出身者による祖先祭祀の継承と実践―大阪を中心に―」
により、大阪府や沖縄県などを中心に文献調査や聞き取り調査を行った。
大阪歴史博物館共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」にともない資料調査を行った。

・その他
五條市史編集委員会専門部会（民俗部会）にかかる調査補助員
能登半島地震復興支援事業・無形民俗文化財被災状況・支援事業にかかる調査員
大阪のなかの「沖縄」、「関西発ラジオ深夜便～かんさい玉手箱“大阪歴史散歩”」、NHKラジオ関西第一、令和7年11月8日

受嘱・派遣・視察

派遣依頼対応

日　付	派遣先	担当者
R7.4.12	大阪府立近つ飛鳥博物館	寺井　誠
R7.4.22	NHK 大阪放送局	中野朋子
R7.5.8	歴史街道推進協議会	内藤直子
R7.5.17	大阪歴史博物館友の会	奥本未世
R7.6.25	NHK 大阪放送局	島﨑未央
R7.6.28	日本映像アーキビスト協会（JAMIA）	奥本未世
R7.8.8	歴史街道推進協議会	田中裕子
		北上真生
		阿部文和
R7.8.23	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之
R7.9.2	NHK 大阪放送局	寺井　誠
R7.10.11	国史学会	岩佐伸一

日　付	派遣先	担当者
R7.10.29	NHK 大阪放送局	猪岡叶英
R7.11.1	街角企画㈱	田中裕子
R7.11.2	なにわの宮リレーウォーク実行委員会	岡本　健
R7.11.8	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之
R7.11.9	一般社団法人大阪はびきの観光局	谷口正樹
R7.11.14	ユネスコ・アジア文化センター	加藤俊吾
R7.12.24	NHK 大阪放送局	俵　和馬
R8.2.18	歴史街道推進協議会	谷口正樹
R8.3.2	NHK 大阪放送局	谷口正樹
R8.3.7	地方独立行政法人 大阪市博物館機構　事務局	大澤研一
R8.3.7	地方独立行政法人 大阪市博物館機構　事務局	岡本　健

視察受入

日　付	来訪者	人数	目的	対応
R7.4.23	上海市教育発展基金会	9	館内視察	学芸課
R7.4.24	タイ王国文化省文化振興局	7	館内視察	学芸課
R7.4.24	韓国 国立大邱博物館	3	学術交流協定	学芸課
R7.6.22	慶北大学校	39	館内視察	学芸課
R7.6.26	タジキスタン共和国副首相・貿易大臣・駐日大使	7	館内視察	総務課
R7.7.18	お札と切手の博物館	6	館内視察	学芸課
R7.9.17	オーストラリア中学生	23	館内視察	総務課
R7.10.12	ホー・ルイ・アン氏	2	展示視察	学芸課
R7.12.11	シカゴ日本語弁論大会姉妹都市賞受賞者	2	館内視察	総務課
R8.1.18	羽曳野市長	2	特別企画展視察	学芸課
R8.2.16	サンパウロ日本語弁論大会優勝者	3	館内視察	総務課
R8.3.5	ビクトリア州日本語弁論大会メルボルン大阪姉妹都市賞受賞者	2	館内視察	総務課

令和７年度大阪歴史博物館入場者数

月	令和７年度　常設展					令和７年度　特別展						合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料			有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生	小中学生					
4	17,327	1,210	18,537	4,027	22,564	7,438	697	0	8,135	2,004	10,139	32,703	3,751
5	18,965	1,942	20,907	5,843	26,750	8,094	875	0	8,969	3,387	12,356	39,106	3,176
6	18,782	2,117	20,899	6,392	27,291	11,654	449	339	12,442	2,622	15,064	42,355	4,471
7	21,818	1,961	23,779	7,547	31,326	29,871	1,129	1,180	32,180	5,846	38,026	69,352	7,609
8	23,285	2,614	25,899	8,189	34,088	36,396	2,009	1,987	40,392	8,317	48,709	82,797	7,056
9	18,115	1,398	19,513	4,474	23,987	0	0	0	0	0	0	23,987	2,806
10	19,305	1,692	20,997	5,787	26,784	0	0	0	0	0	0	26,784	3,641
11	13,579	1,074	14,653	8,592	23,245	0	0	0	0	0	0	23,245	3,387
12	9,222	896	10,118	5,087	15,205	0	0	0	0	0	0	15,205	3,179
1	10,788	894	11,682	5,441	17,123	0	0	0	0	0	0	17,123	3,068
2	13,387	1,040	14,427	5,642	20,069	0	0	0	0	0	0	20,069	3,319
3	13,777	1,422	15,199	4,840	20,039	0	0	0	0	0	0	20,039	2,913
合計	198,350	18,260	216,610	71,861	288,471	93,453	5,159	3,506	102,118	22,176	124,294	412,765	48,376
										総合計		461,141	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数などが含まれる。
※令和７年４月30日、８月12日　臨時開館

利用規定

大阪歴史博物館利用規程
制定　平成31年4月1日

（趣旨）
第１条　大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。
（休館日）
第２条　博物館の休館日は、次のとおりとする。
(1)　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日 以外の日）
(2)　12月28日から翌年1月4日まで
2　前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
3　館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。
（供用時間）
第３条　博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。
2　前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又 は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。
（使用の許可）
第4条　別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
（使用許可の制限）
第５条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。
(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき
(2)　建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
(3)　管理上支障があるとき
(4)　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第 77 号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
(5)　その他不適当と認めるとき
（使用許可の取消し等）
第６条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。
(1)　偽りその他不正の手段により第 4 条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
(2)　前条各号に定める事由が発生したとき
(3)　この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき
（意見の聴取）
第７条　館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。
2　理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。
（入館の制限）
第８条　館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。
(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
(2)　建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
(4)　管理上必要な指示に従わない者
(5)　その他管理上支障があると認める者
（特別観覧の許可）
第９条　博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
2　特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。
（貸出しの許可）
第10条　博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
2　博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。
（利用料金）
第11条　博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 17 条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。
2　利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。
(1)　観覧料（特別の展示に係るものを除く。）1人1回につき別表第2に掲げる金額
(2)　特別の展示に係る観覧料特別の展示ごとに理事長が定める額
(3)　施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）
3　日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。
4　施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。
5　理事長は、前3項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。
6　館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に 基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。

7　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部 を還付することができる。
(1)　災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
(2)　使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
(3)　その他館長が特別の事由があると認めるとき

(特別設備)

第12条　使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2　館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3　使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)

第13条　博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。
使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附　則

(施行期日)

1　この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。

2　本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による

附 則1この規程は、令和7年4月1日から施行する。

別表第1（第4条、第11条関係）

区分	施設使用料
講　　堂	1室1日につき　36,000円
第1研修室	1室1日につき　15,200円
第2研修室	1室1日につき　8,200円
第1会議室	1室1日につき　7,500円
第2会議室	1室1日につき　7,000円
第3会議室	1室1日につき　7,300円
特別展示室	1室1日につき　96,800円
その他の館内及び構内地	1平方メートル1日につき　14,300円

別表第2（第11条関係）

区分		観覧料	団体(20人以上)観覧料
常設展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪市が設立する地方独立行政法人大阪市博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館　　長	大澤研一		
副 館 長	澤井浩一		
総務課	課　　長	塚田　義	
	係　　長	羽室有加里	白川貴子
	主　　任	桜井香栄	
	係　　員	西村安希子	
		樋口祥子	
		中村祥子	
		小川泰伸	
企画広報課	課　　長	李　陽浩	
	企画広報係　係　　長	中野朋子	
	主任学芸員	杉本厚典	
	係　　員	阿部文和	
		柴田晃子	
	情報資料係　係　　長	加藤俊吾	
	係　　員	安岡早穂	
		谷口正樹	
		小林佳美	
		宮下愛子	
	主　　任		森松五月
	研究副主幹	寺井　誠	
学芸課	課　　長	松本百合子	
	課長代理	内藤直子	
	学芸第1係　係　　長	田中裕子	
	係　　員	俵　和馬	
		奥本未世	
	学芸第2係　係　　長	寺井　誠（兼務）	
	主任学芸員	岩佐伸一	
	係　　員	岡本　健	
		川端優子（総務課兼務）	
	学芸第3係　係　　長	豆谷浩之	
	係　　員	島﨑未央	
		北上真生	
		猪岡叶英	

人事

新規採用（令和7年4月1日）			
	学芸第1係	係　　長	田中裕子
転　　入（令和7年12月1日）			
	企画広報課	主　　任	森松五月
退　　職（令和7年11月30日）			
	総務課	係　　員	小川泰伸
退　　職（令和8年3月31日）			
	館　　長	大澤研一	
	学芸課	課　　長	松本百合子
	企画広報課	係　　員	宮下愛子

大阪歴史博物館年報　令和7年度
令和8年10月16日発行©

編集・発行　大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本　株式会社因州屋
〒577-0067 大阪府東大阪市高井田西5-4-4

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Oct. 2026